

1. アンケート調査概要

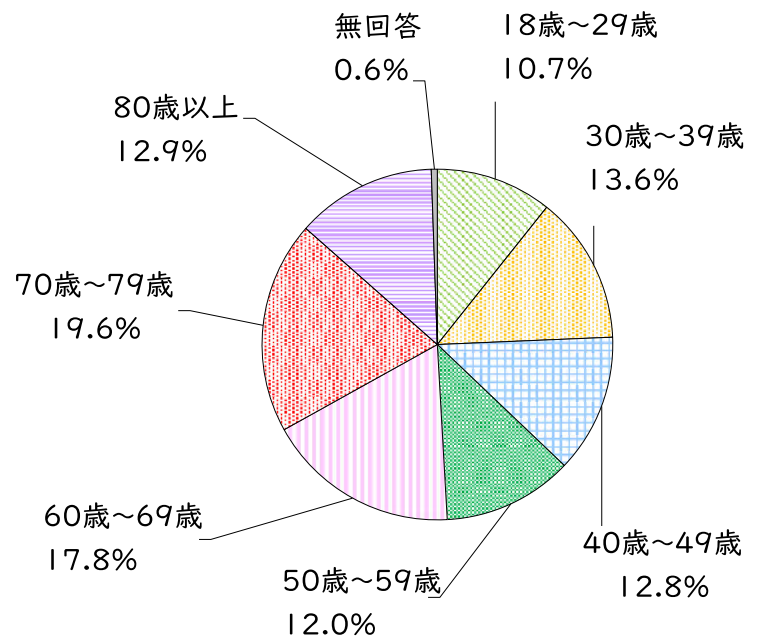
- (1) 実施時期：令和 8 年 4 月 15 日～令和 8 年 5 月 18 日
- (2) 配布数：10,519 票（本町内の全世帯）
- (3) 回収数：4,317 票（紙回答 3,314 通, WEB 回答 1,003 通）
- (4) 回収率：約 41.0%

2. 各項目集計結果

1. 年代

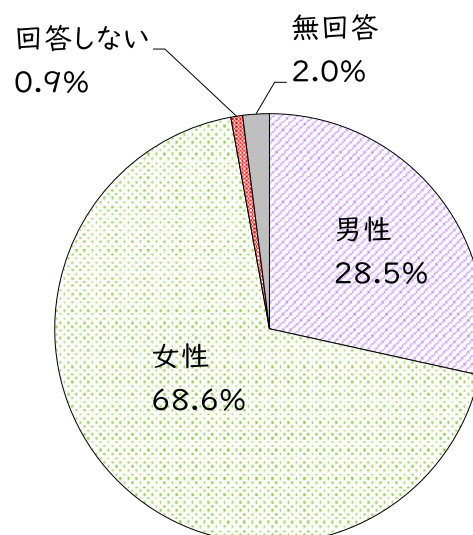
「70 歳代」の割合が 20%弱と最も高く、次いで「60 歳代」が約 18%となりました。

一方、「18 歳～29 歳代」は約 10%にとどまっており、60 歳以上の回答者が全体の約半数を占めています。

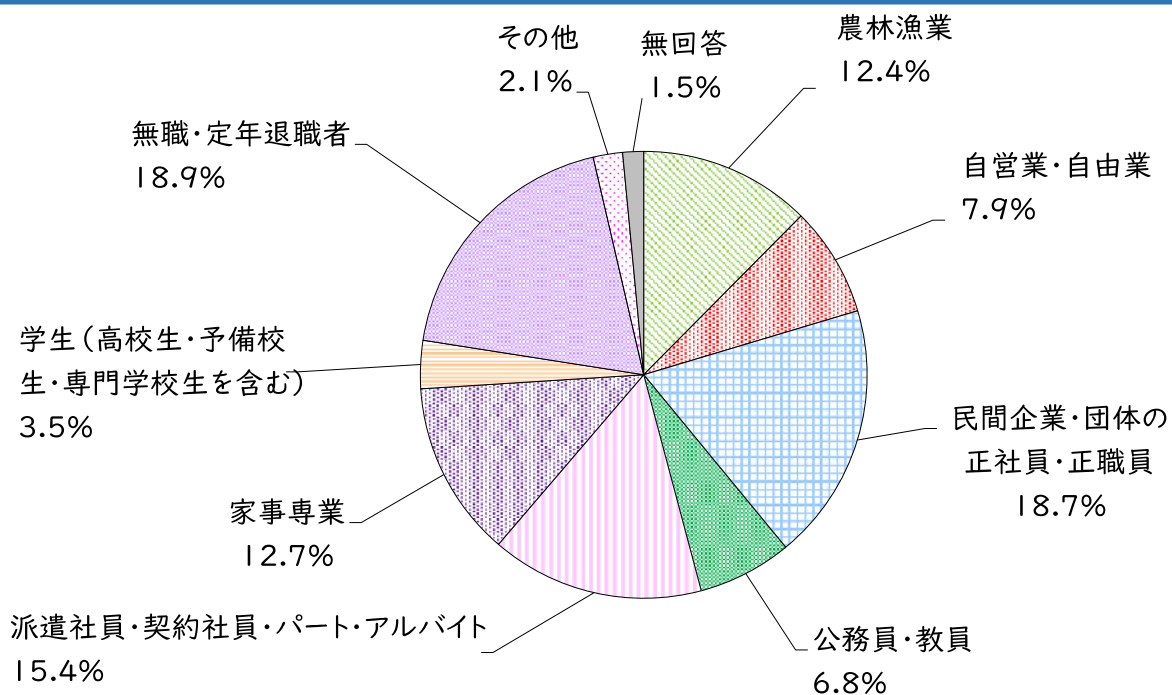


2. 性別

女性の回答割合が 70%弱と男性を大きく上回っています。



3. 職業

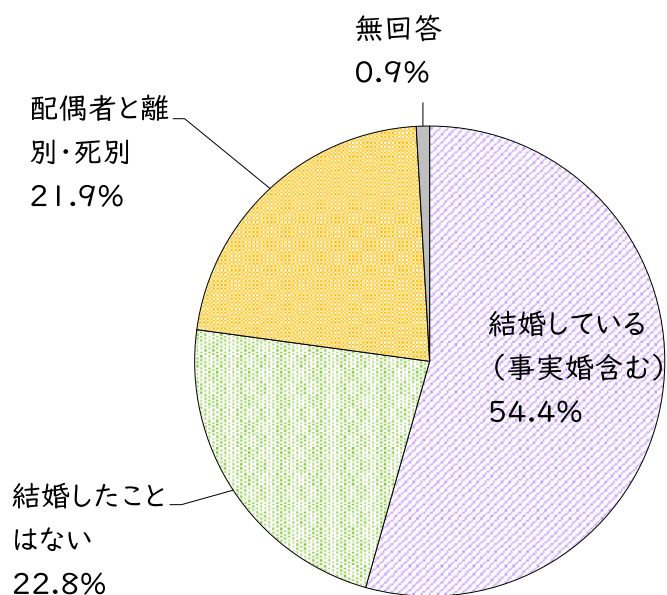


「無職・定年退職者」次いで「民間企業・団体の正社員・正職員」がそれぞれ 20%弱、「派遣社員・契約社員・パート・アルバイト」が 15%程度となりました。また、「農林漁業」が 12%程度を占めています。

4 婚姻

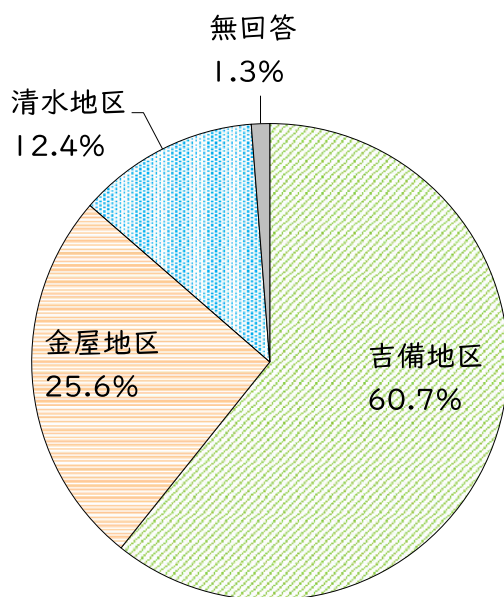
「結婚している(事実婚含む)」が 54%強と最も高く、過半数を占めています。

次いで「結婚したことはない」が 22%強、「配偶者と離別・死別」が 21%強となっています。



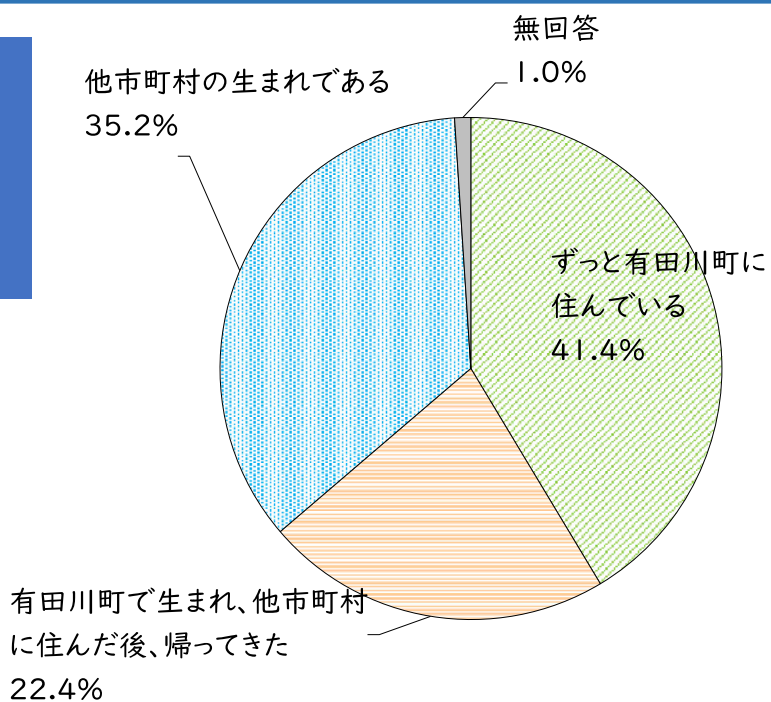
5 地域

「吉備地区」が 60%強と最も高く、次いで「金屋地区」が 25%強、「清水地区」が 12%強となりました。回答者の約 60%が吉備地区に居住しています。



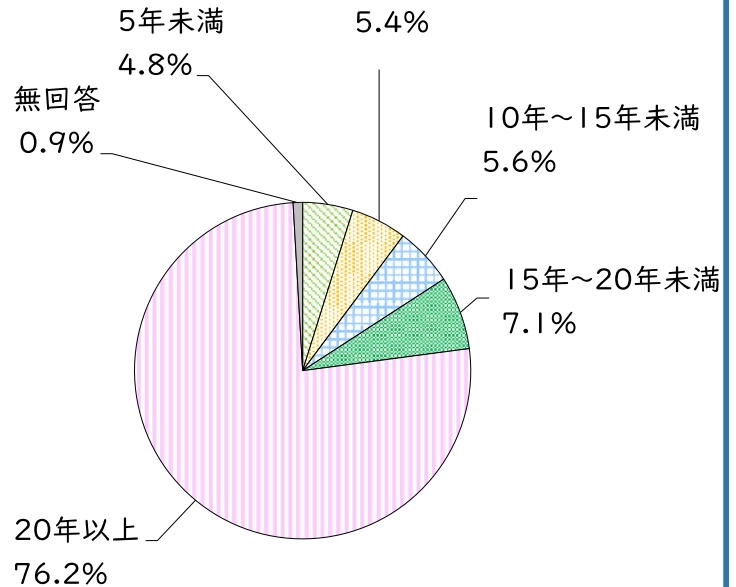
6 有田川町での居住歴

「ずっと有田川町に住んでいる」が 41%強と最も高く、次いで「他市町村の生まれである」が 35%強、「有田川町生まれで一度転出後に戻った」が 22%強となりました。

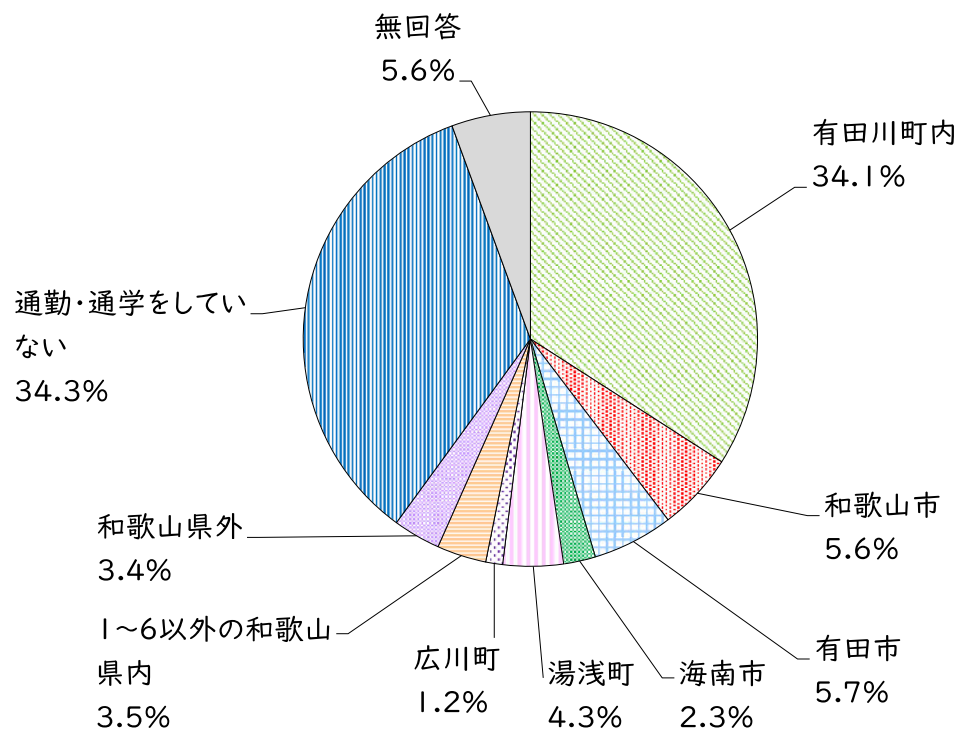


7 有田川町での累計居住年数

「20年以上」が76.2%と突出して高く、長期間居住している住民が大半を占めています。

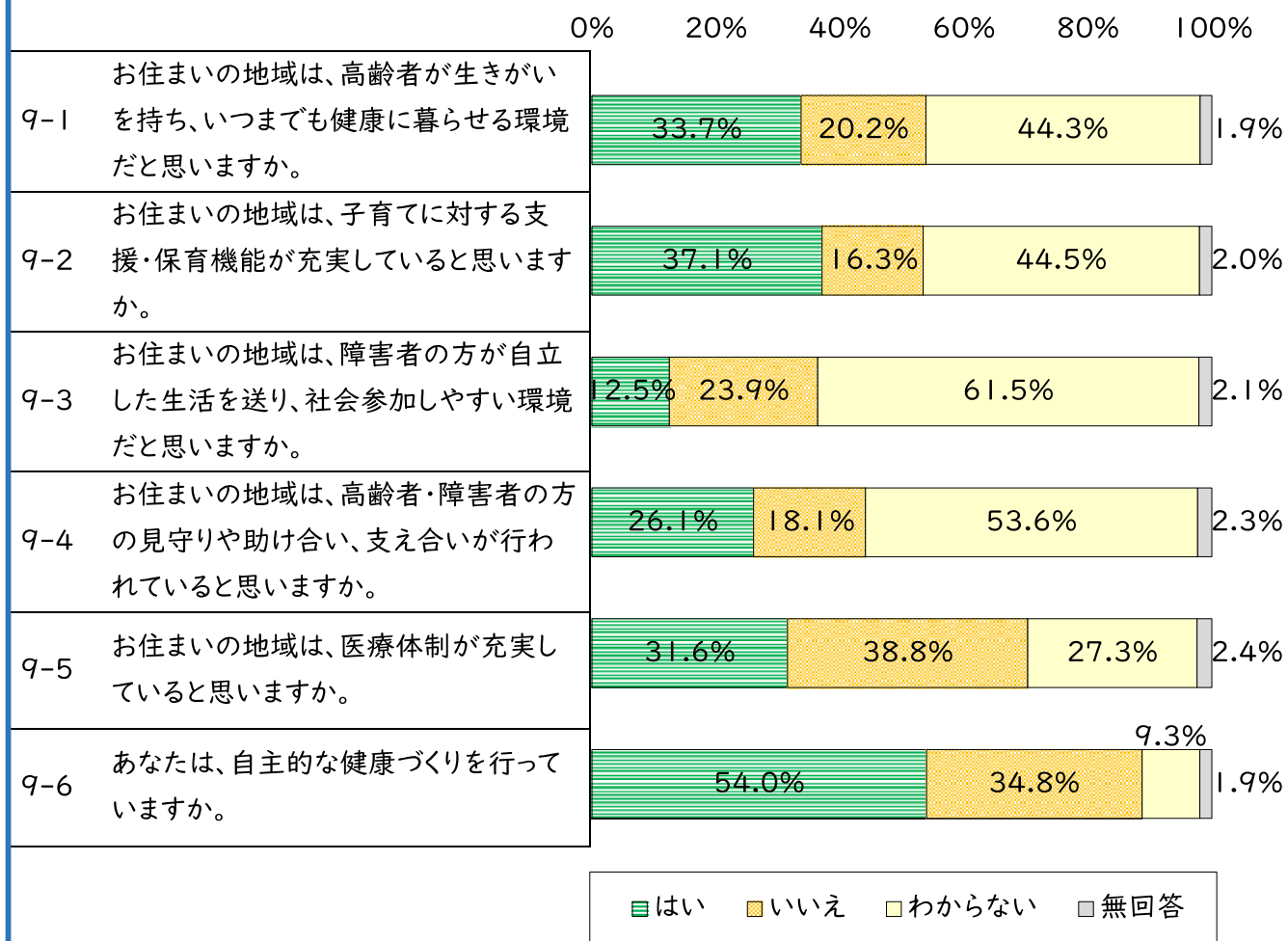


8 通勤・通学先



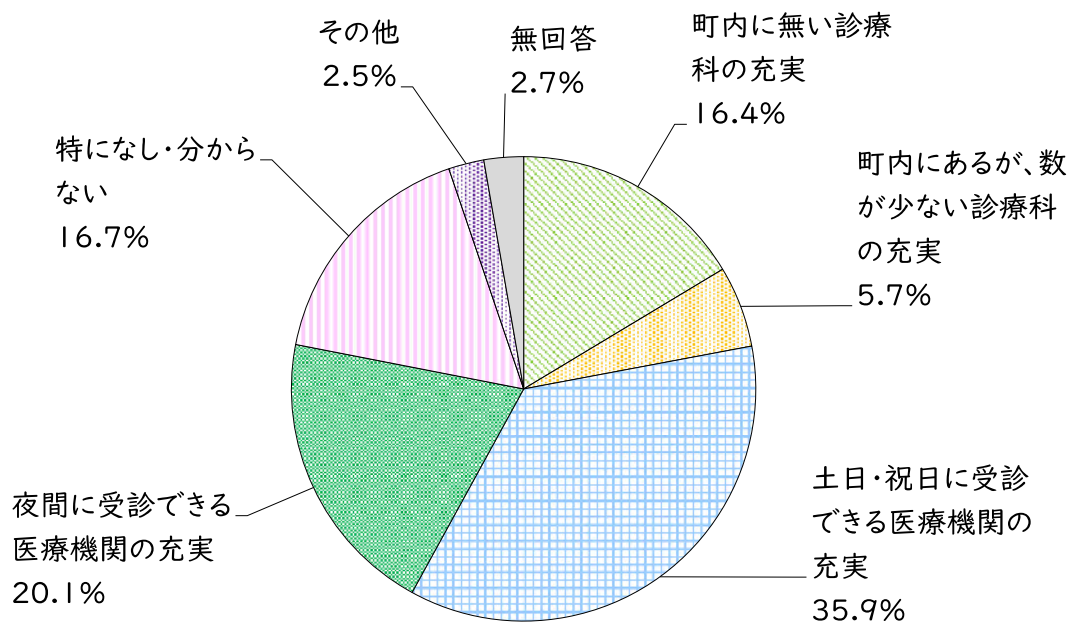
「通勤・通学をしていない」次いで「有田川町内」がそれぞれ約 34%強となりました。

9 次の設問について、1つに○をつけてください。



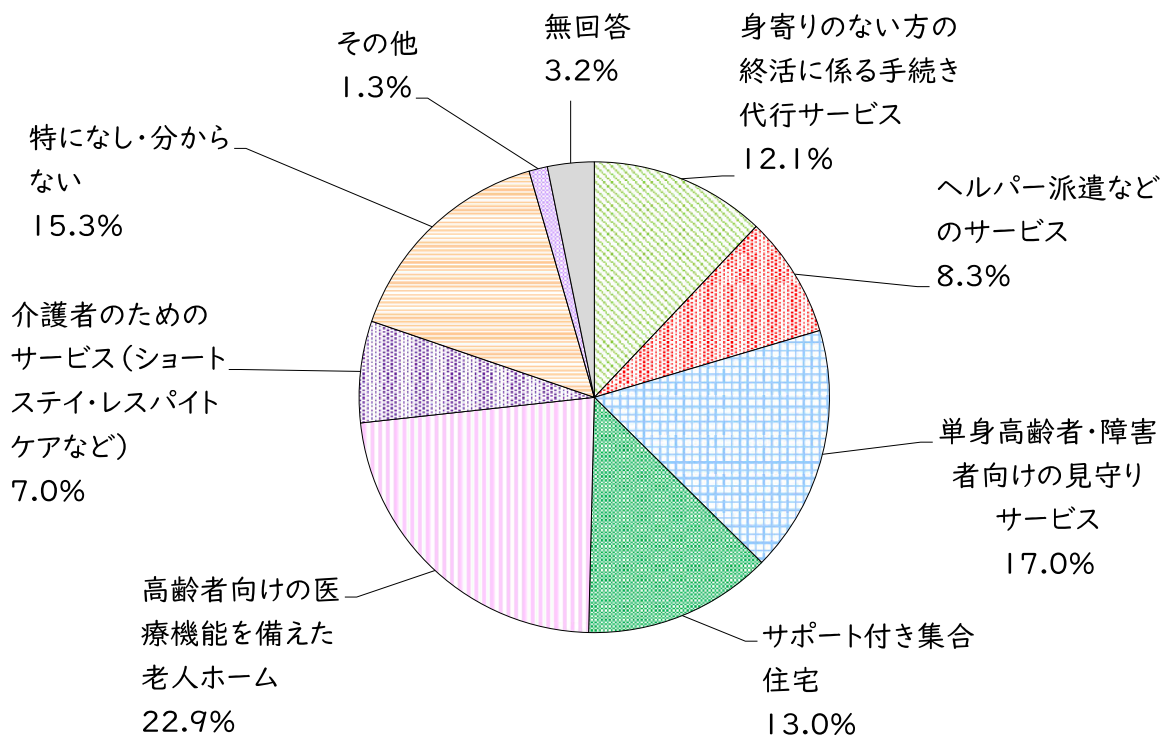
「自主的な健康づくりを行っている」が54%と最も高くなっています。一方、「地域の医療体制が充実している」は「いいえ」が38%強で「はい」の31%強を上回っています。

10 有田川町で今後必要だと思う医療施設



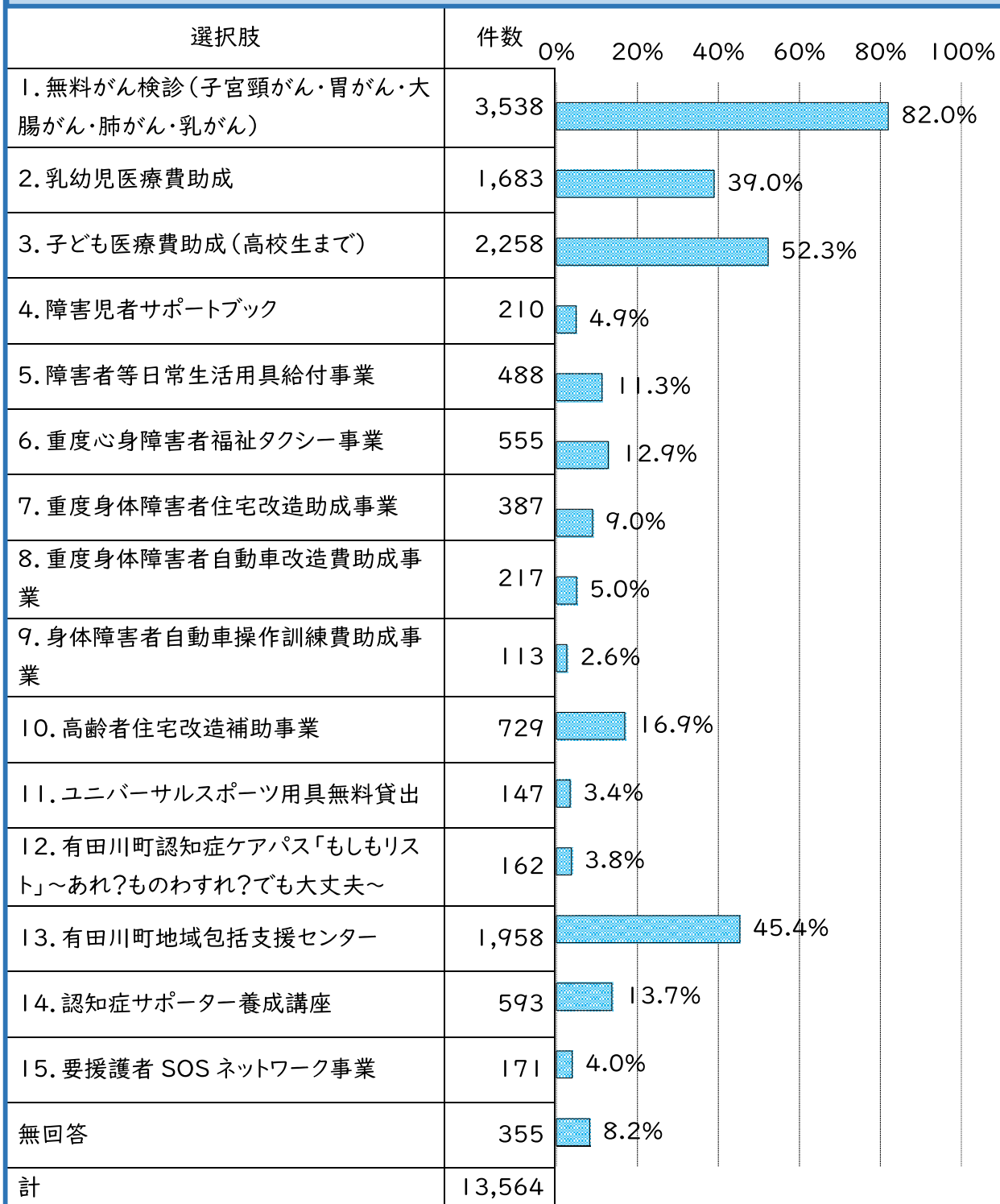
「土日・祝日に受診できる医療機関の充実」が 35.9%と最も高く、次いで「夜間に受診できる医療機関の充実」が 20.1%、「町内に無い診療科の充実」が 16.4%となりました。

11 有田川町で今後必要だと思う高齢者・要介護者・障害者向けの施設やサービス



「高齢者向けの医療機能を備えた老人ホーム」が 22.9%と最も高く、次いで「単身高齢者・障害者向けの見守りサービス」が 17.0%となりました。

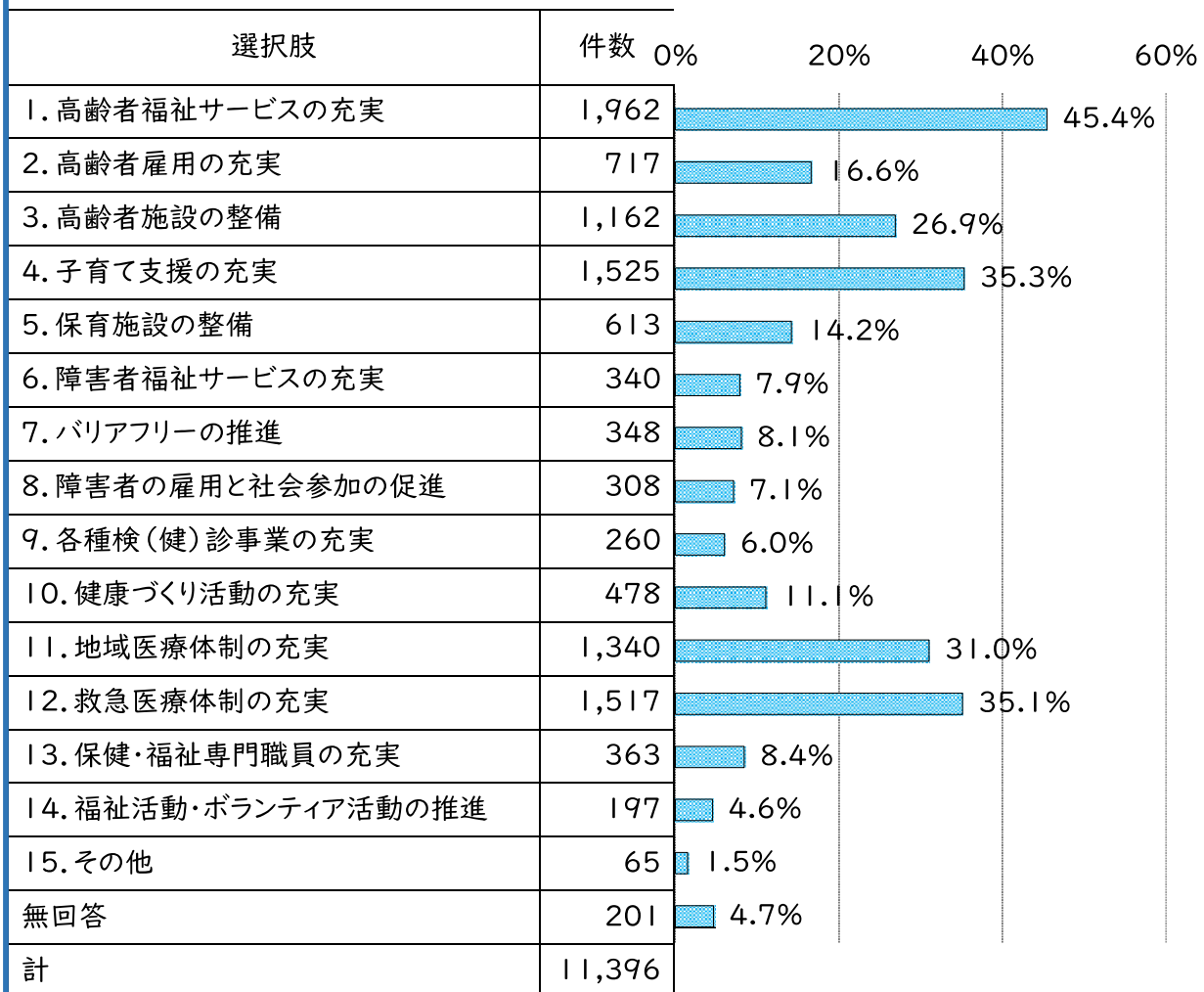
12 有田川町で行っている保健・福祉・医療に関する施策（補助金・サービスなど）で知っているもの



集計母数 4,317 名

「無料がん検診（子宮頸がん・胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん）」が 82%と最も高く、回答者の大多数に認知されていました。次いで、「子ども医療費助成（高校生まで）」が 52%強、「有田川町地域包括支援センター」が 45%強、「乳幼児医療費助成」が 39%となっています。

13 有田川町で今後重要だと思う保健・福祉・医療

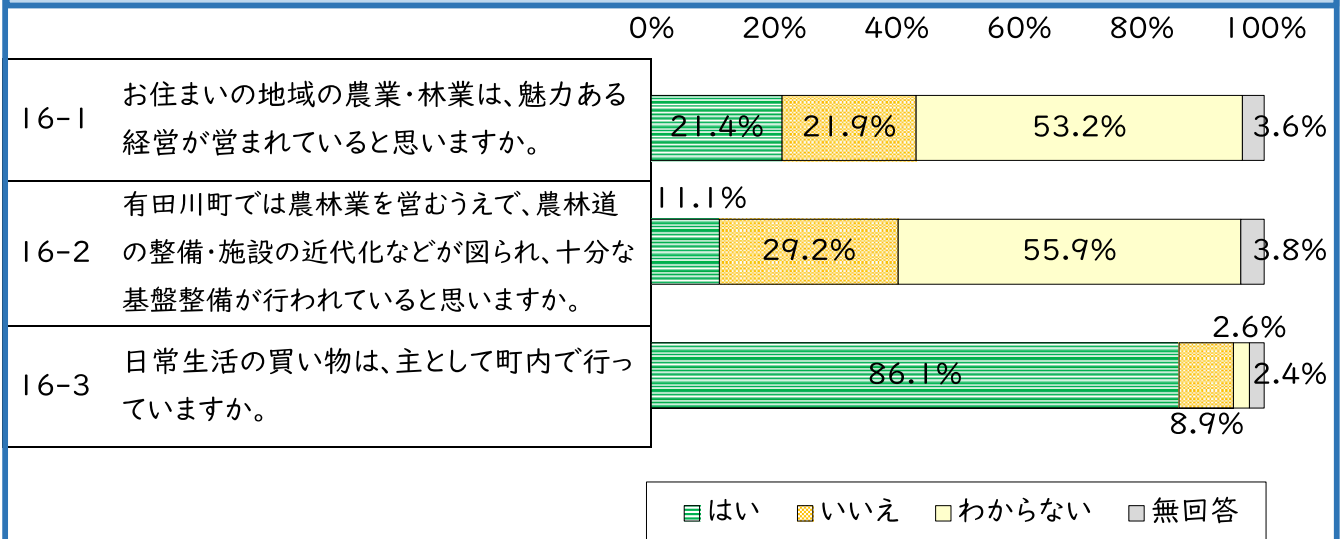


集計母数 4,317 名

※4 つ以上回答した 70 名を含む。

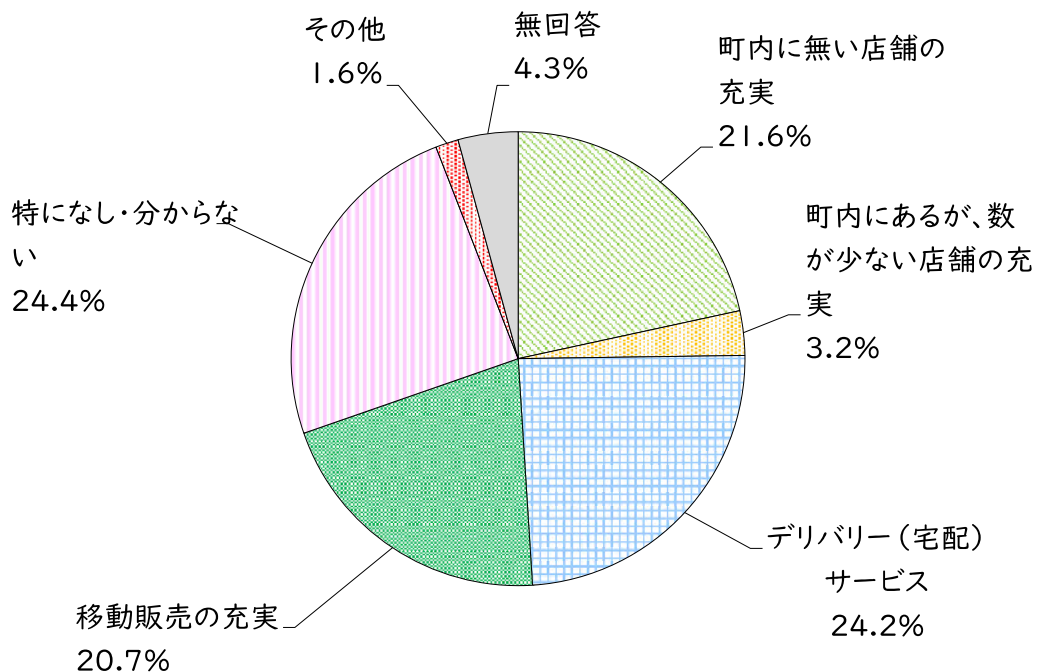
「高齢者福祉サービスの充実」が 45%強と最も高く、次いで「子育て支援の充実」が 35%強、「救急医療体制の充実」が 35%強、「地域医療体制の充実」が 31%となりました。

14 次の設問について、1つに○をつけてください。



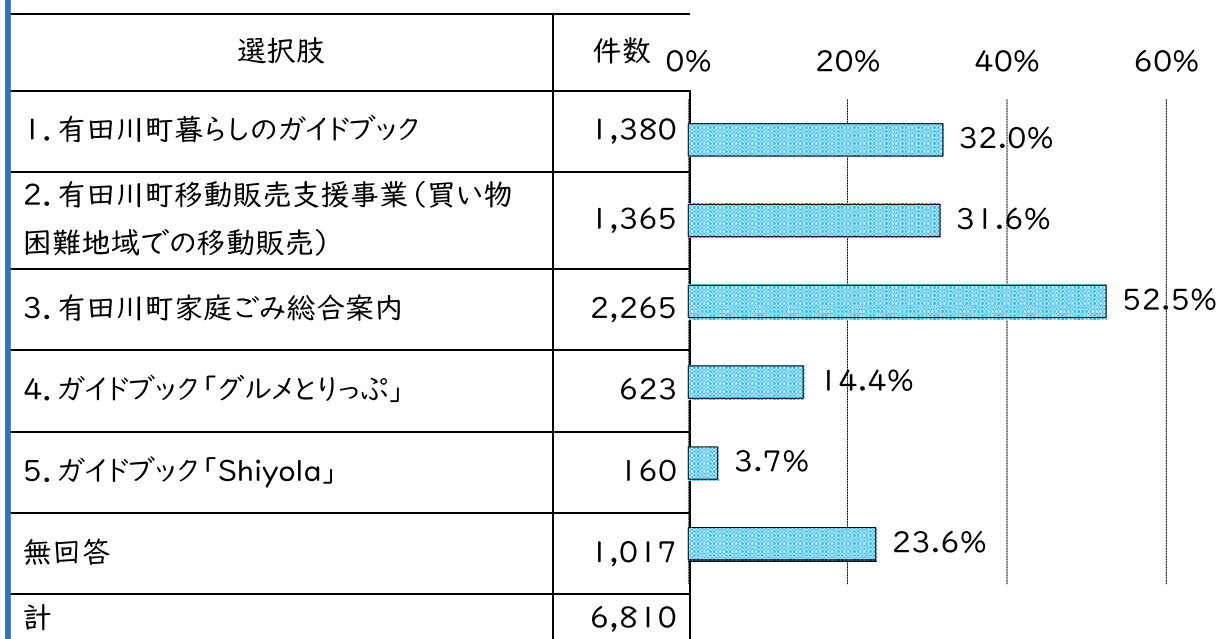
「日常生活の買い物は主として町内で行っている」が86.1%と非常に高い割合を占めています。一方で、農林業の魅力や基盤整備については「わからない」が50%を超えています。

15 有田川町での今後必要だと思う日常生活の買い物



「特になし・分からない」次いで「デリバリー（宅配）サービス」がそれぞれ24%強、「町内に無い店舗の充実」が21%強、「移動販売の充実」が20%強となりました。

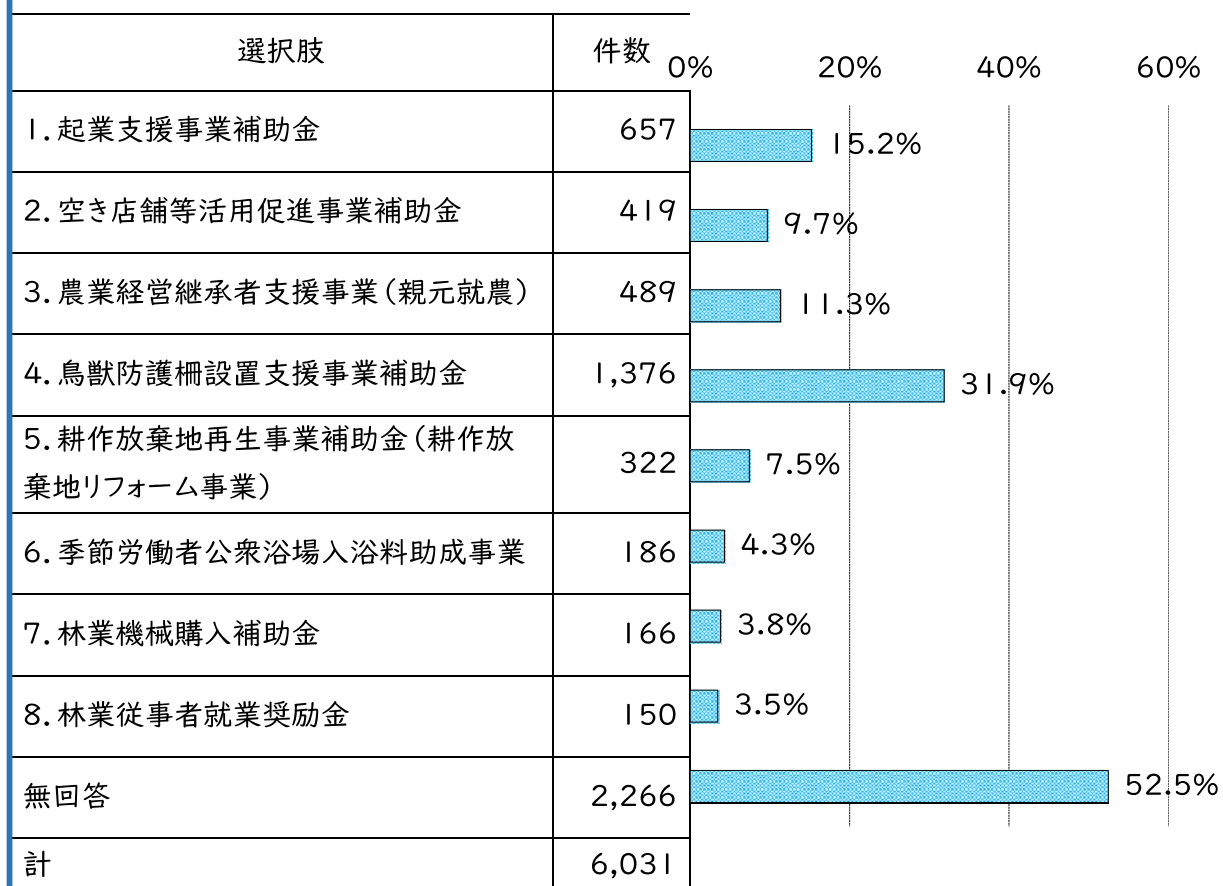
16 有田川町で行っている暮らし・買い物に関する施策（補助金・サービスなど）で知っているもの



集計母数 4,317 名

「有田川町家庭ごみ総合案内」が 52.5%と最も高く、回答者の半数以上が認知していました。次いで、「有田川町暮らしのガイドブック」が 32.0%、「有田川町移動販売支援事業（買い物困難地域での移動販売）」が 31.6%となっています。

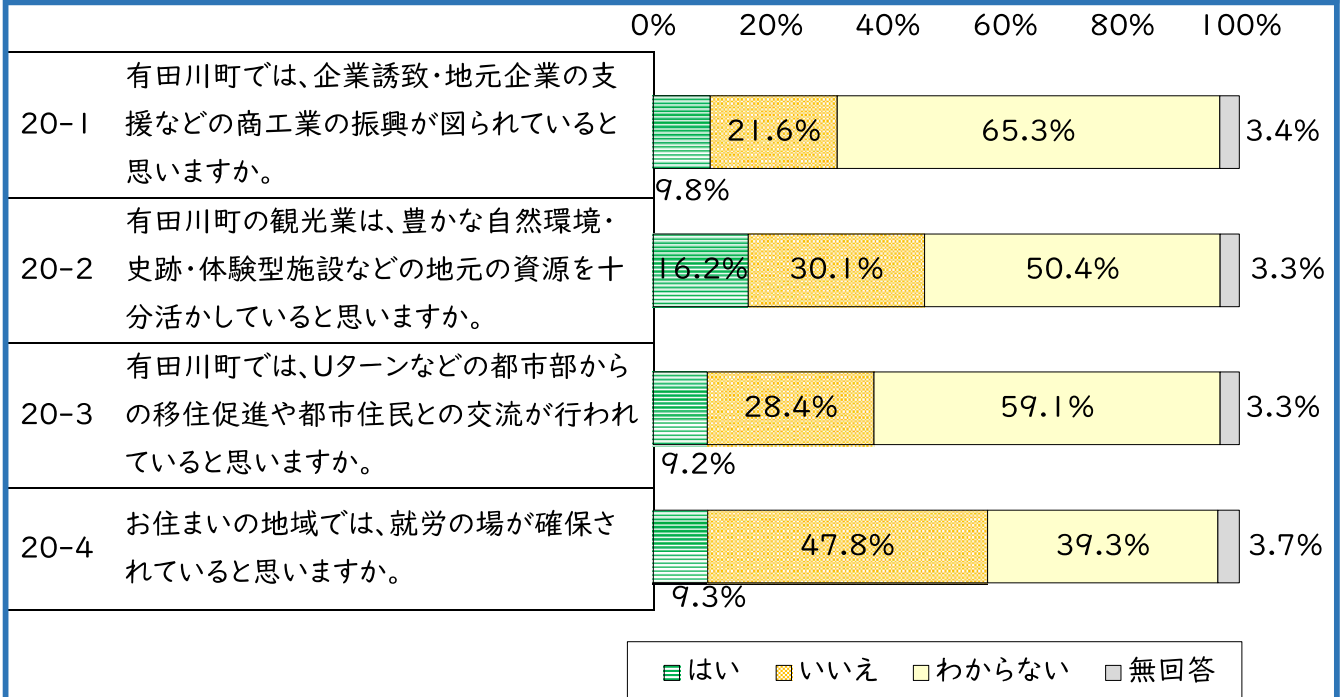
17 有田川町で行っている産業振興・農山村整備に関する施策（補助金・サービスなど）で知っているもの



集計母数 4,317 名

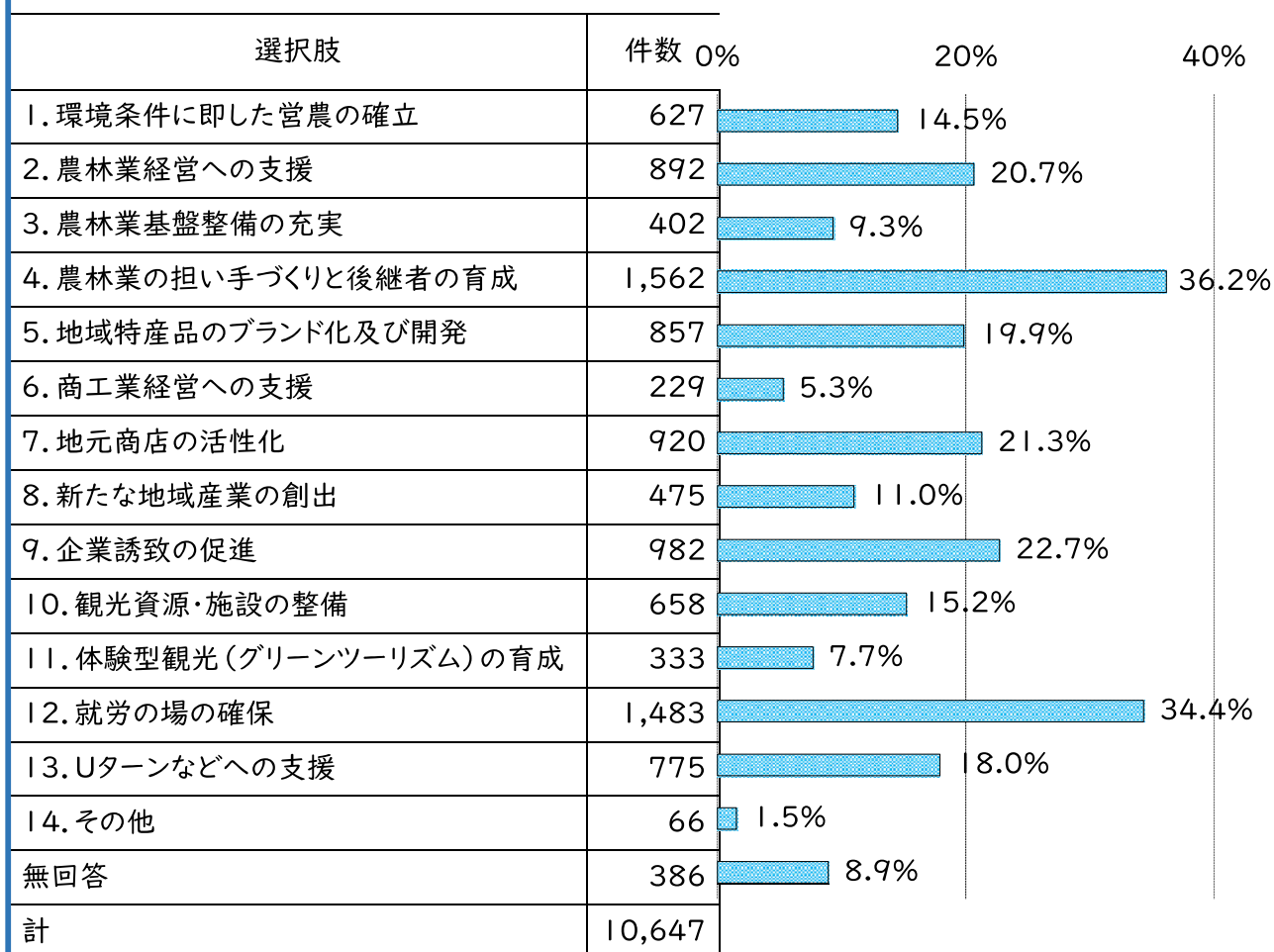
「鳥獣防護柵設置支援事業補助金」が 31.9%と最も高く、次いで、「起業支援事業補助金」が 15.2%、「農業経営継承者支援事業（親元就農）」が 11.3%、「空き店舗等活用促進事業補助金」が 9.7%となりました。

18 有田川町で行っている産業振興・農山村整備に関する施策（補助金・サービスなど）で知っているもの



「就労の場が確保されていると思うか」については、「いいえ」が47%強と最も高くなっています。また、企業誘致や移住促進、観光振興についても「わからない」が過半数を占めています。

19 これからの有田川町の産業振興・農山村整備において、重要だと思うもの（3つまで）



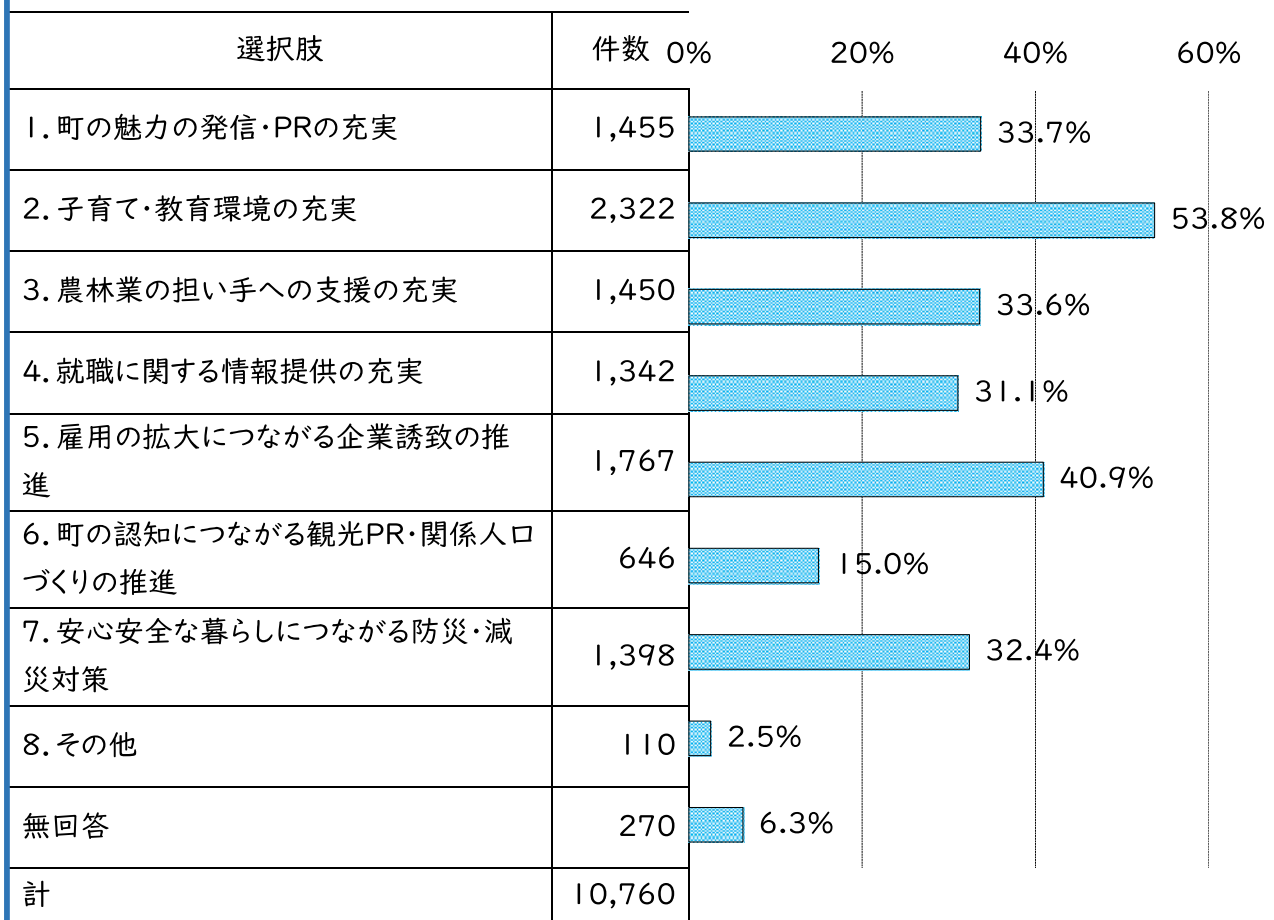
集計母数 4,317 名

※4 つ以上回答した 36 名を含む。

「農林業の担い手づくりと後継者の育成」が 36.2%と最も高く、次いで「就労の場の確保」が 34.4%、「企業誘致の促進」が 22.7%、「地元商店の活性化」が 21.3%となりました。

有田川町では基幹産業である農林業の継承と地域内で働ける環境づくりが重要課題として認識されています。人口減少や若年層流出への対応として、産業振興と雇用創出を一体的に進める必要があると考えられます。

20 有田川町への移住・定住促進に向けて、特に力を入れて取り組む必要があると思うもの



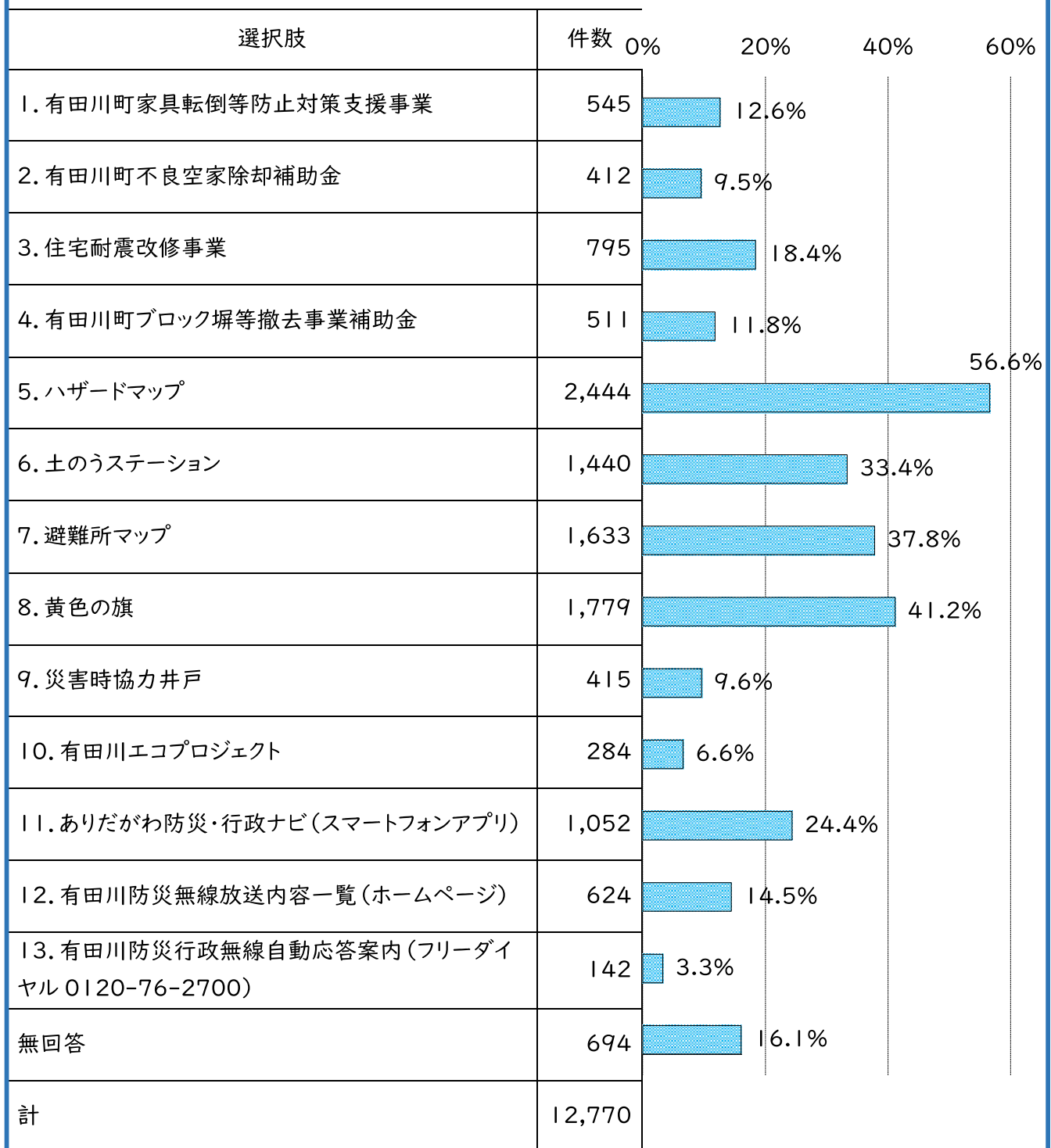
集計母数 4,317 名

※4 つ以上回答した 36 名を含む。

「子育て・教育環境の充実」が 53.8%と最も高く、次いで「雇用の拡大につながる企業誘致の推進」が 40.9%、「町の魅力の発信・PR の充実」が 33.7%、「農林業の担い手への支援の充実」が 33.6% となりました。

移住・定住促進においては、情報発信よりも「子育て環境」と「働く場所」の充実が重視されています。特に若年世代の定住促進には、雇用確保と子育て支援を一体的に推進することが重要であることがうかがえます。

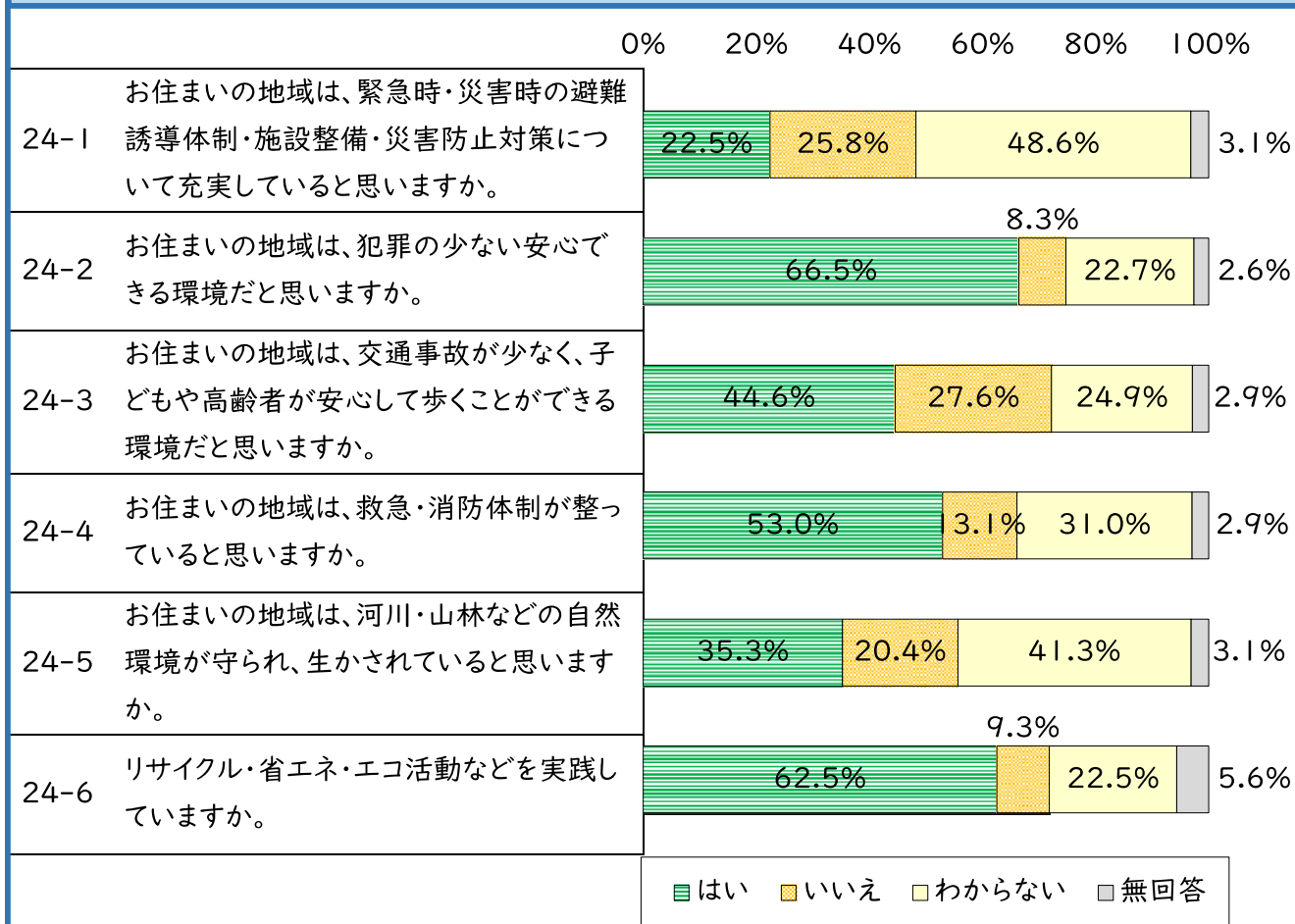
21 有田川町で行っている防災・安全・自然環境保全に関する施策（補助金・サービスなど）で知っているものをお答えください。（あてはまるものすべて）



集計母数 4,317 名

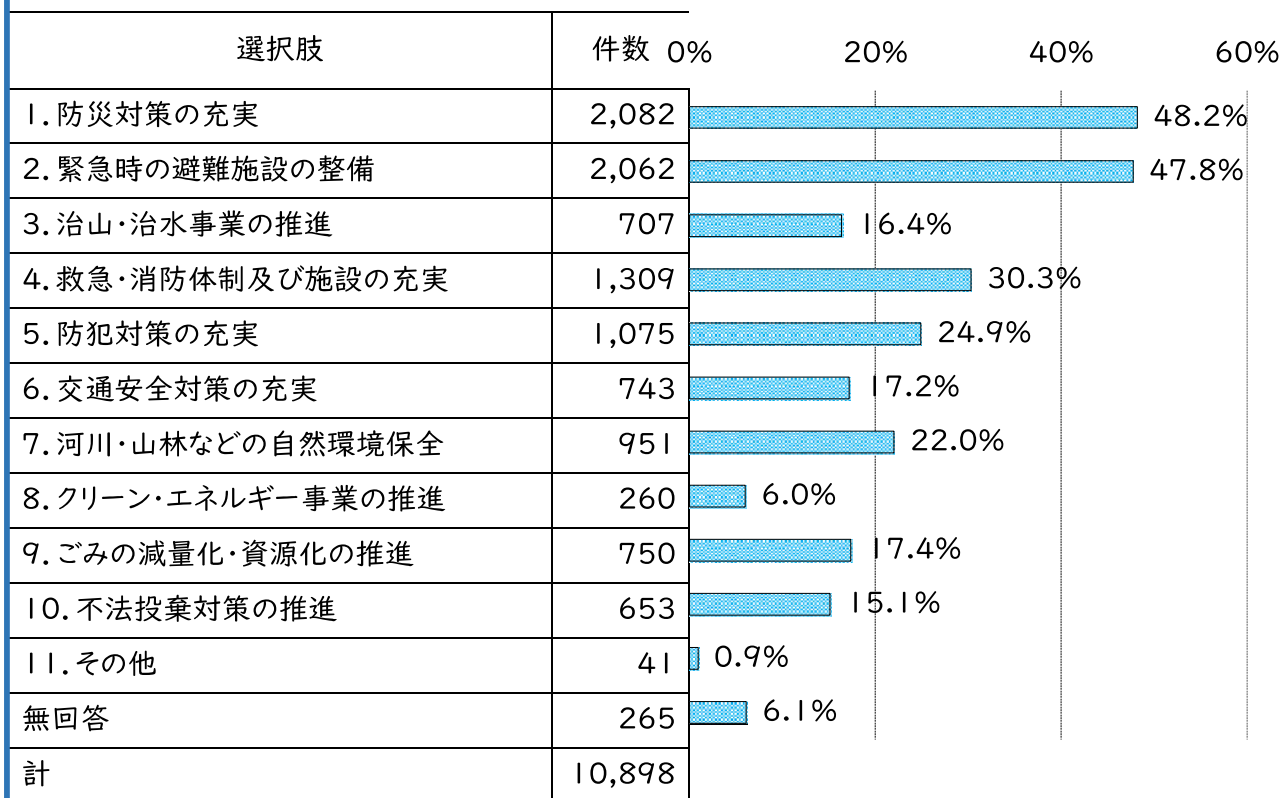
「ハザードマップ」が 56.6%と最も高く、次いで「黄色の旗」が 41.2%、「避難所マップ」が 37.8%、「土のうステーション」が 33.4%となりました。

22 次の設問について、1つに○をつけてください。



「犯罪の少ない安心できる環境」が66%強、「リサイクル・省エネ活動を実践している」が62%強、「救急・消防体制が整っている」が53%となる一方、「災害時の避難誘導体制・施設整備」では「わからない」が48.6%を占めています。

23 これからの有田川町の安心・安全・自然環境保全において、重要だと思うもの (3つまで)

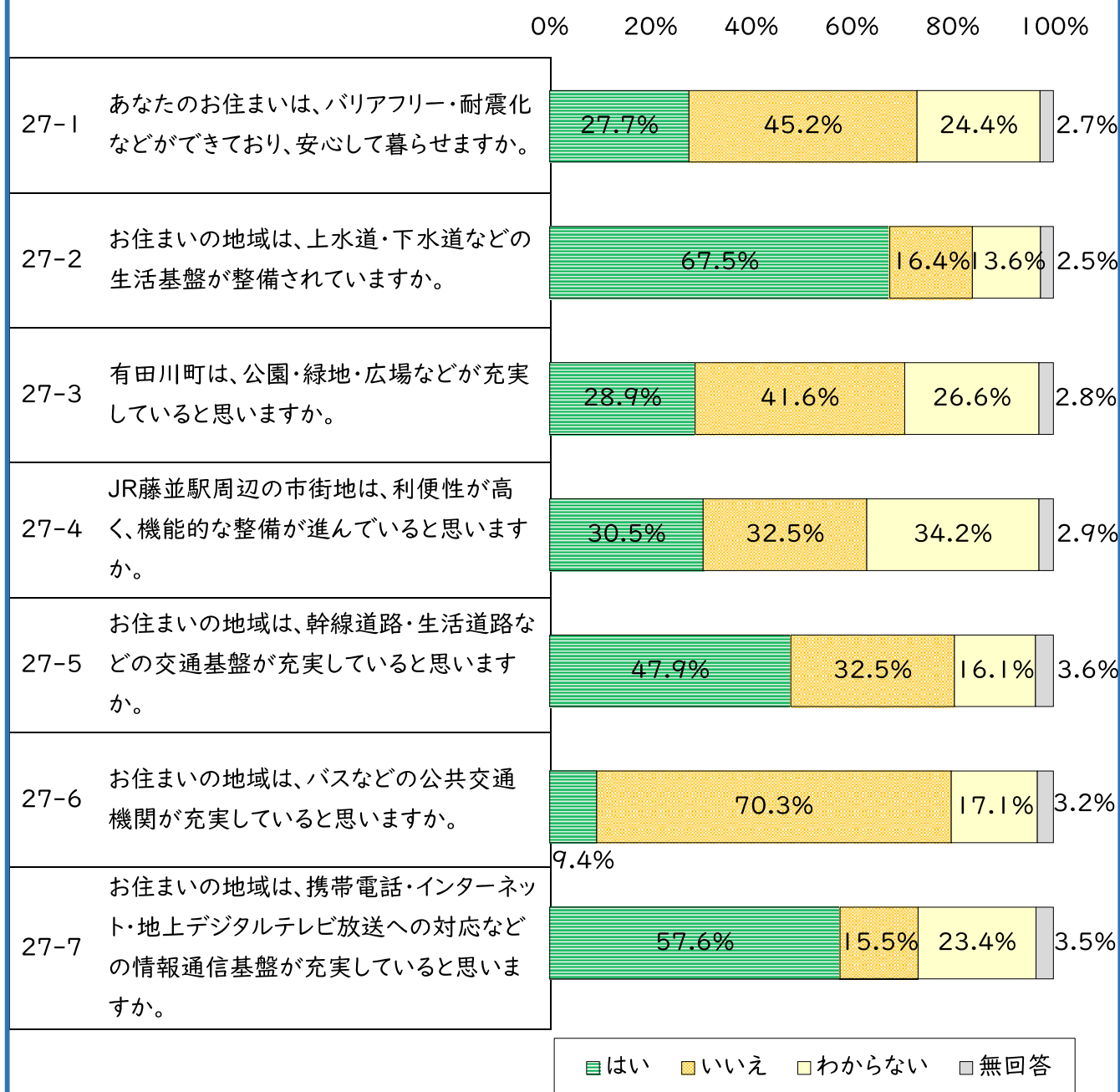


集計母数 4,317 名

※4 つ以上回答した 27 名を含む。

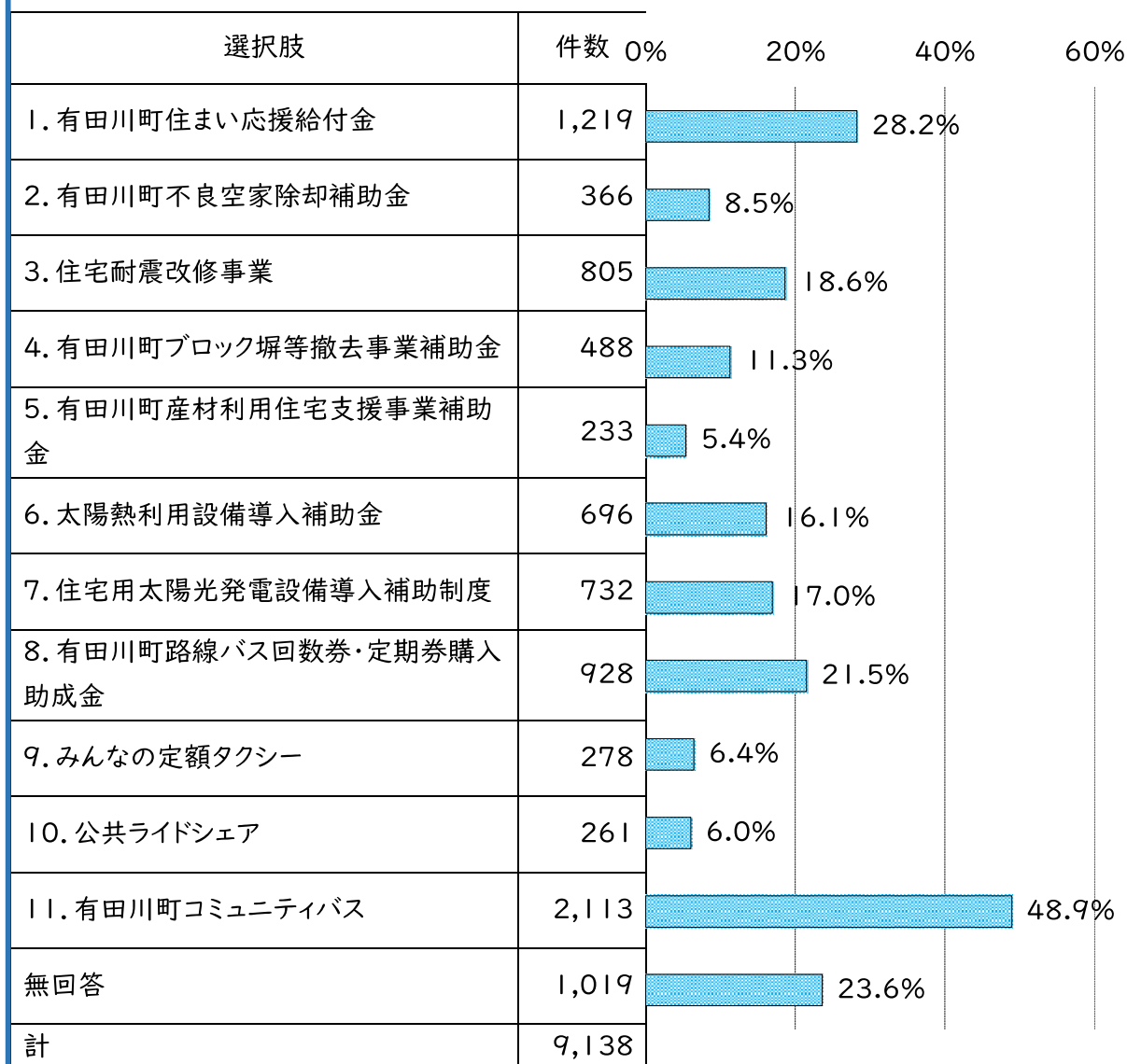
「防災対策の充実」が 48.2%と最も高く、次いで「緊急時の避難施設の整備」が 47.8%、「救急・消防体制及び施設の充実」が 30.3%となりました。

24 次の設問について、1つに○をつけてください。



「上水道・下水道などの生活基盤が整備されている」が67.5%、「情報通信基盤が充実している」が57.6%と高い評価となりました。一方、「公共交通機関が充実している」は「いいえ」が70.3%と突出しています。

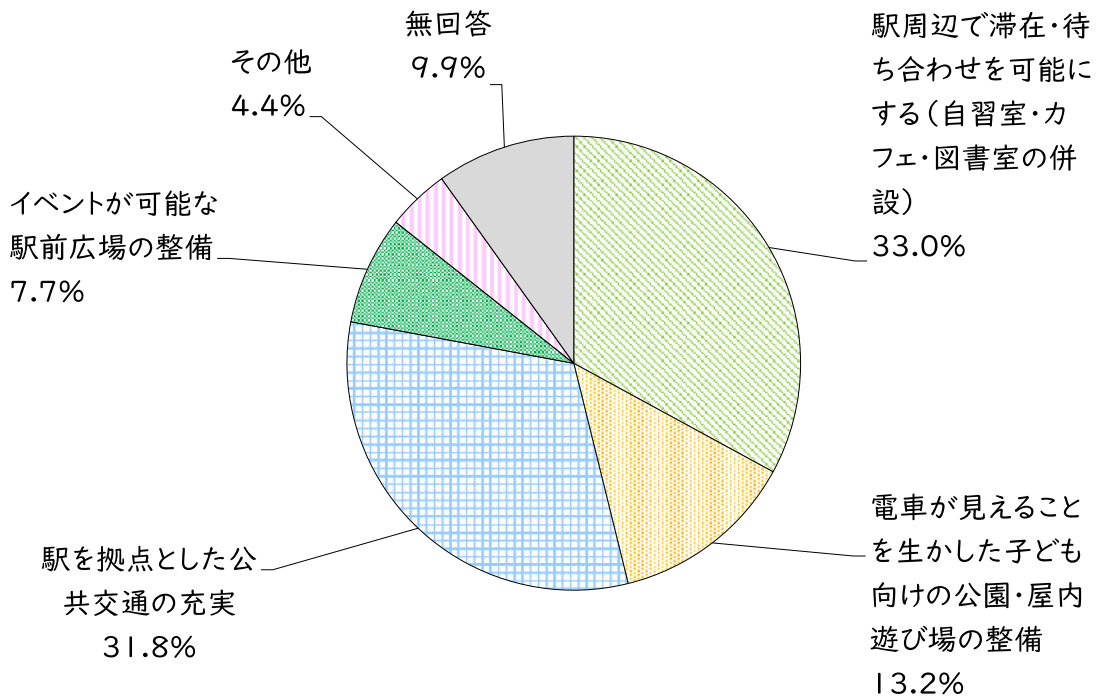
25 有田川町で行っている住宅・公共交通に関する施策（補助金・サービスなど）で、知っているものすべて



集計母数 4,317 名

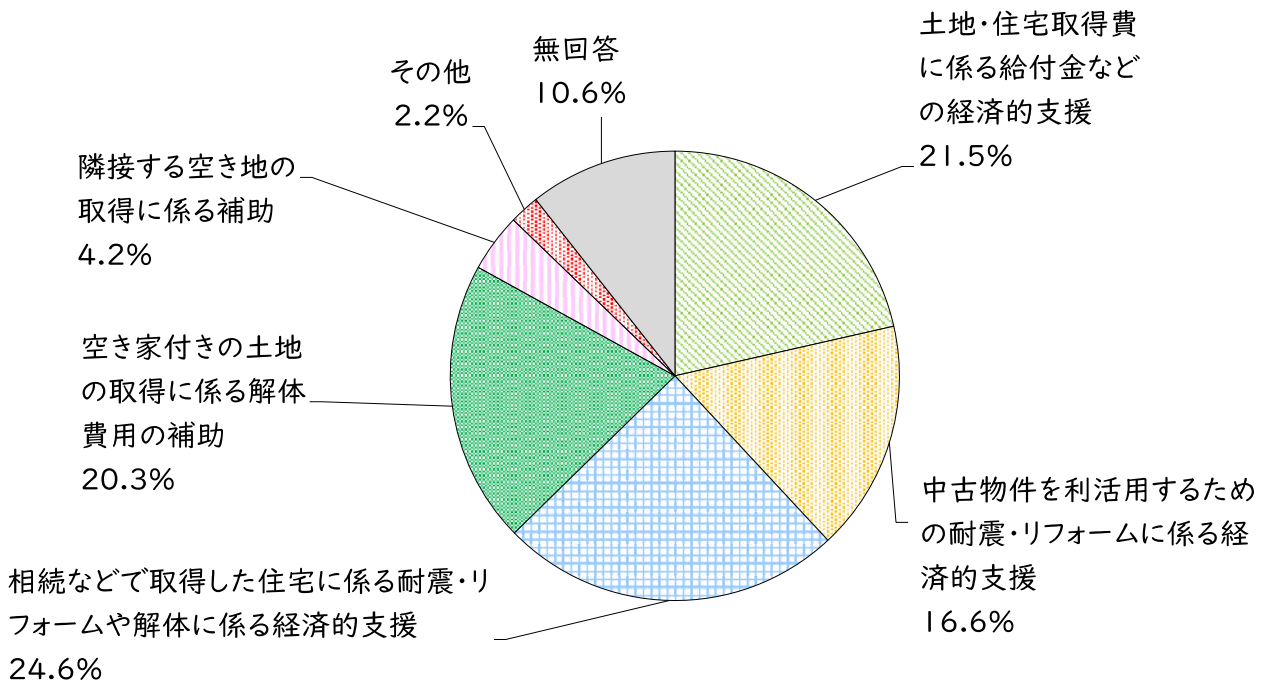
「有田川町コミュニティバス」が 48.9%と最も高く、次いで「有田川町住まい応援給付金」が 28.2%、「路線バス回数券・定期券購入助成金」が 21.5%となりました。

26 有田川町の魅力・利便性を高めるために藤並駅周辺の整備を行うとすれば、どのような整備が必要と考えるか



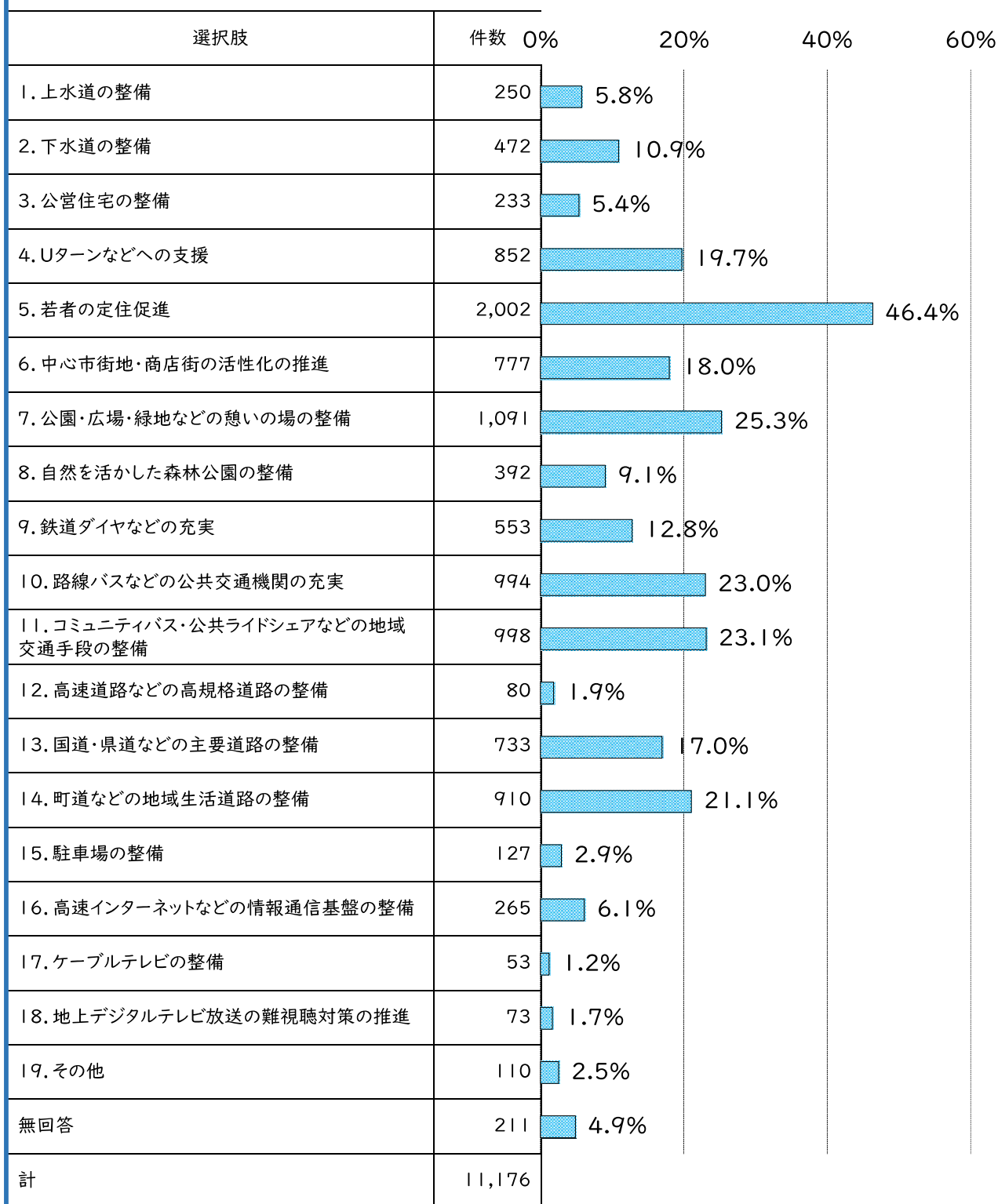
「駅周辺で滞在・待ち合わせを可能にする施設整備」が 33.0%と最も高く、次いで「駅を拠点とした公共交通の充実」が 31.8%となりました。

27 有田川町における住宅に係る支援として、今後必要だと思う施策



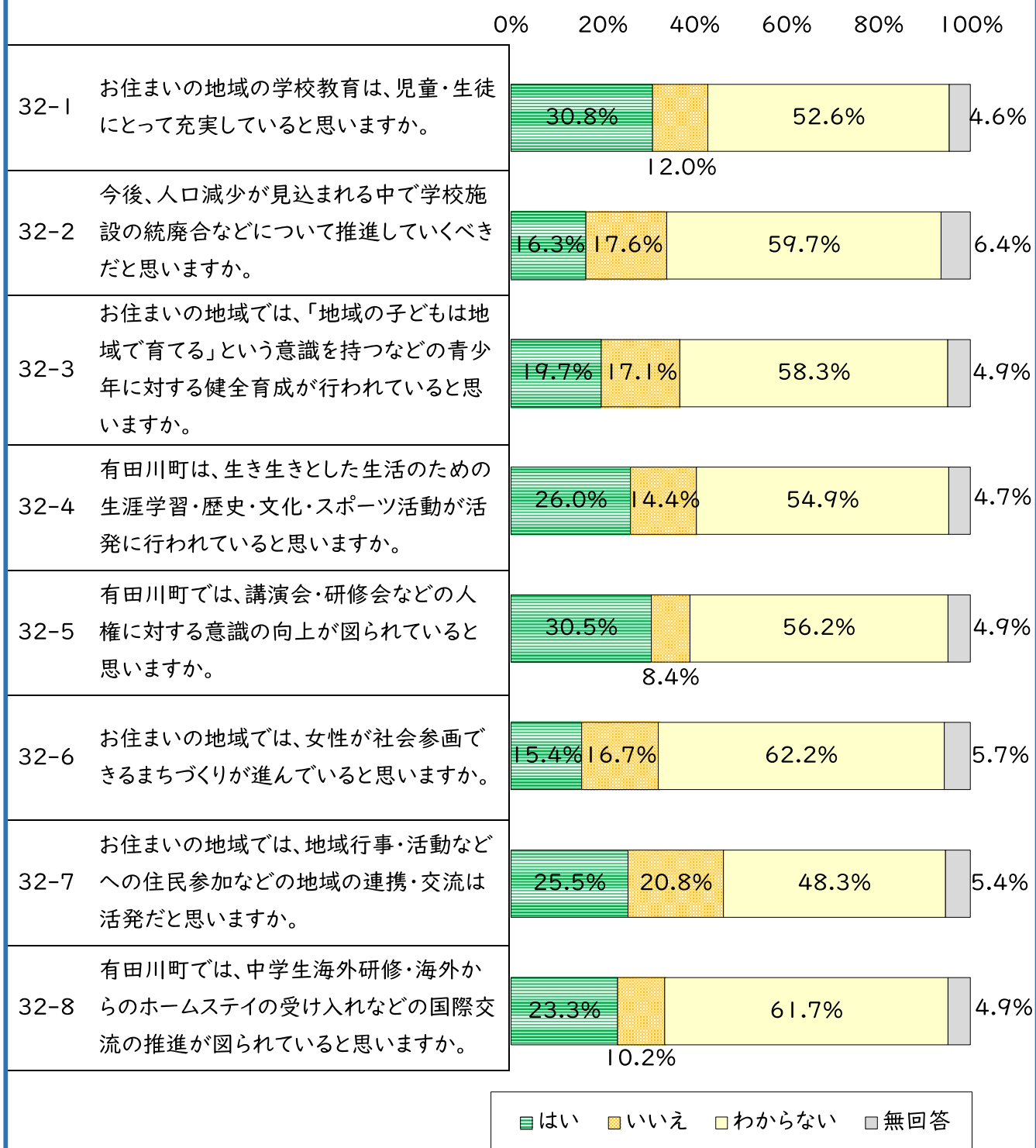
「相続などで取得した住宅に係る耐震・リフォームや解体支援」が 24.6%と最も高く、次いで「土地・住宅取得費への支援」が 21.5%、「空き家付き土地の取得に係る解体補助」が 20.3%となりました。

28 これからの有田川町のまちづくりにおいて、重要だと思うもの（3つまで）



「若者の定住促進」が 46.4%と最も高く、次いで「公園・広場・緑地などの憩いの場の整備」が 25.3%、「コミュニティバス・公共ライドシェアなどの地域交通手段の整備」が 23.1%となりました。

29 次の設問について、1つに○をつけてください。

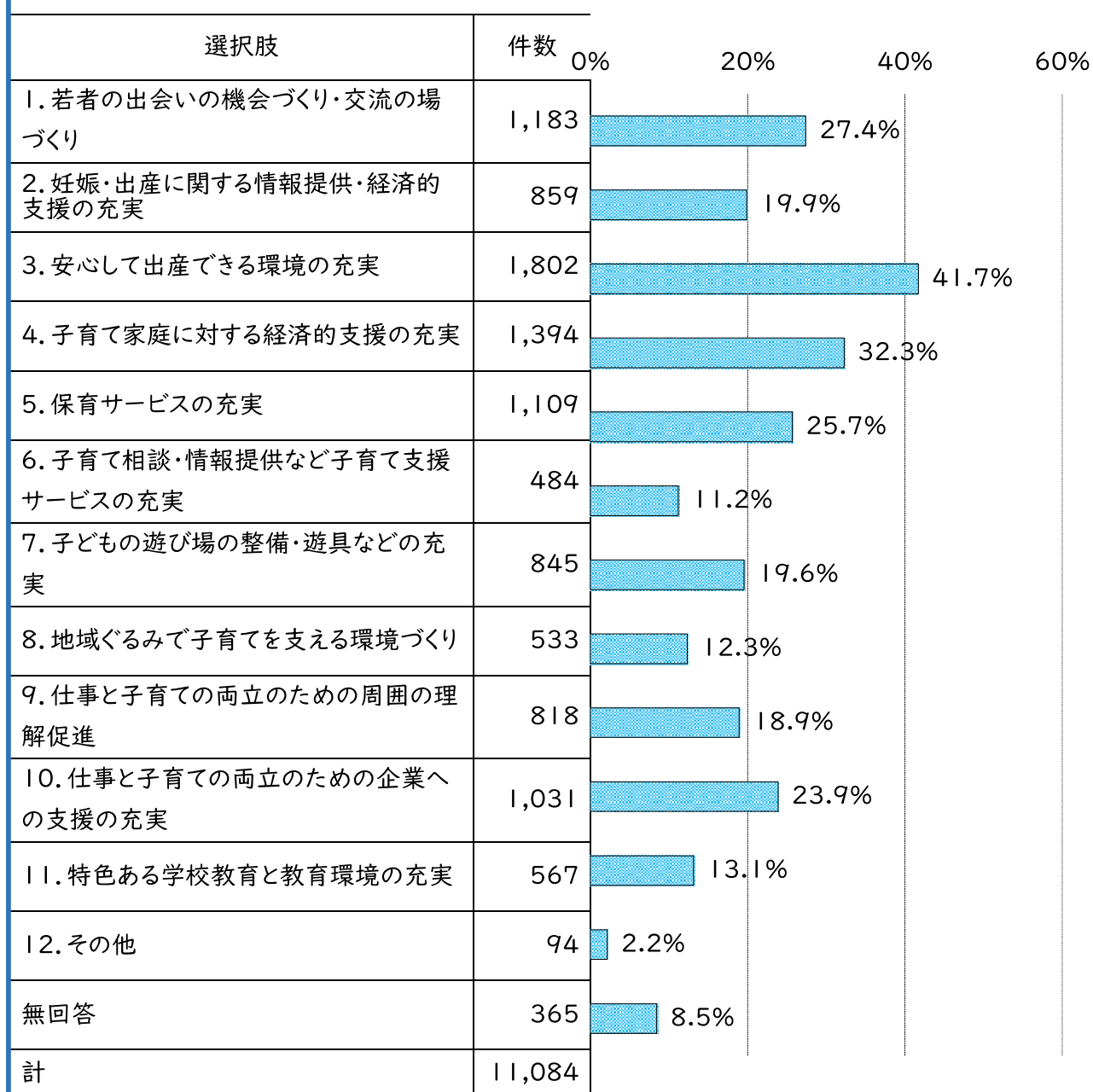


多くの項目で「わからない」が50～60%となりました。

30 今後、人口減少が見込まれる中で学校施設の統廃合などについて推進していくべきだと思いますか。推進していくべきと思う場合は、どのように推進していくべきと考えるかご意見をお聞かせください。（ご意見の内容）

大項目	小項目	件数
1.好意的な意見	①教育水準・教育環境の確保	86
	②集団生活・成長機会の確保（部活・行事・人間関係）	75
	③通学・生活面の支援	133
	④再編手法・合意形成の工夫	200
2.否定的な意見	①通学負担・安全面への懸念	4
	②身近な学校の価値の喪失	6
	③大規模化により教育環境の悪化	8
	④地域の衰退・地域存続の懸念	17
3.その他	その他	45
		574

31 子育てを充実させるために、特に力を入れて取り組む必要があると思うも（3つまで）



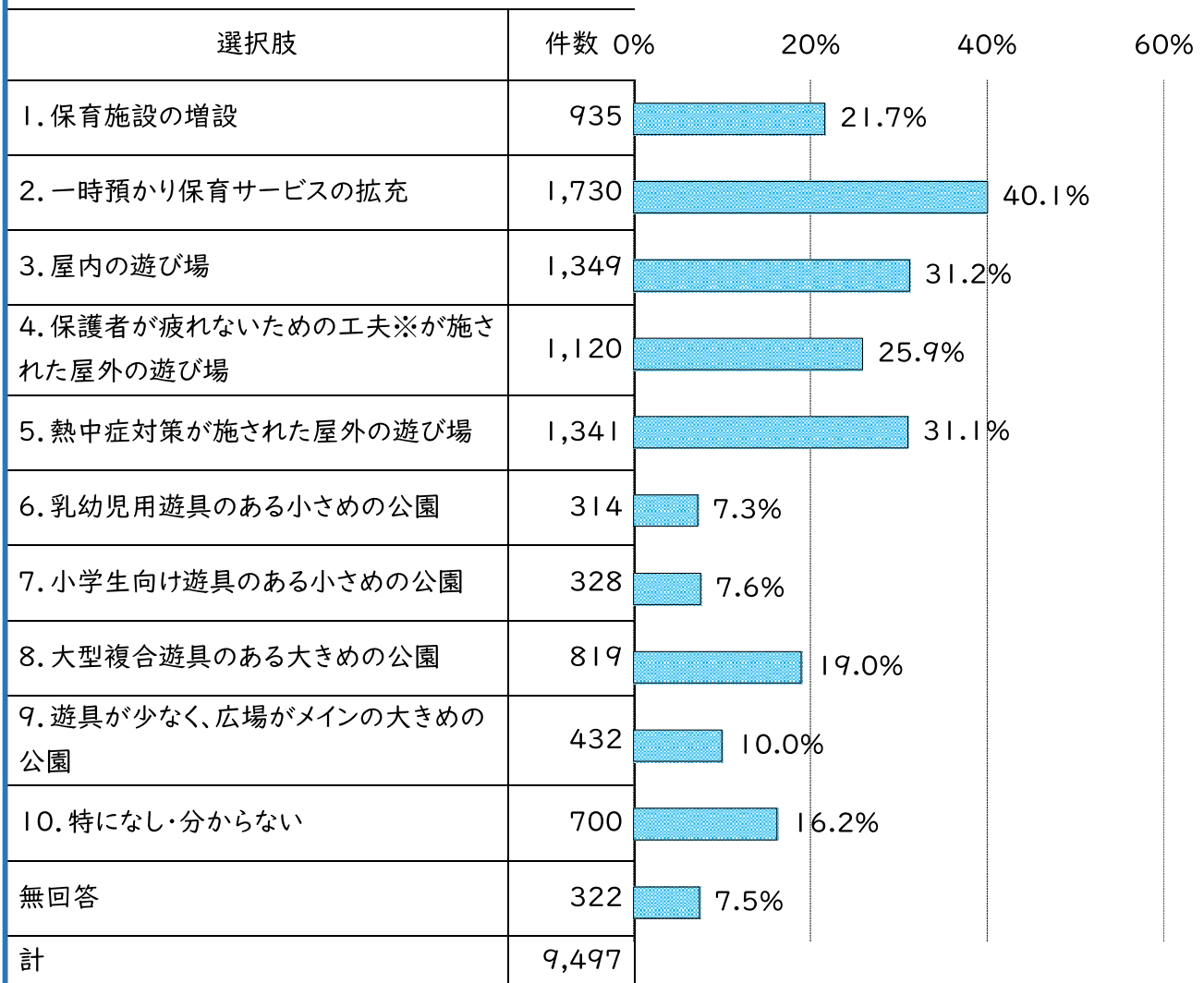
集計母数 4,317 名

※4 つ以上回答した 20 名を含む。

「安心して出産できる環境の充実」が 41.7%と最も高く、次いで「子育て家庭に対する経済的支援」が 32.3%、「若者の出会いの機会づくり」が 27.4%となりました。

出産から子育てまで切れ目のない支援への期待が高い結果となりました。少子化対策として、結婚・出産・子育てを包括的に支援する施策の重要性が示されています。

32 有田川町での子育てに関して、あなたが今後必要だと思うもの（3つまで）



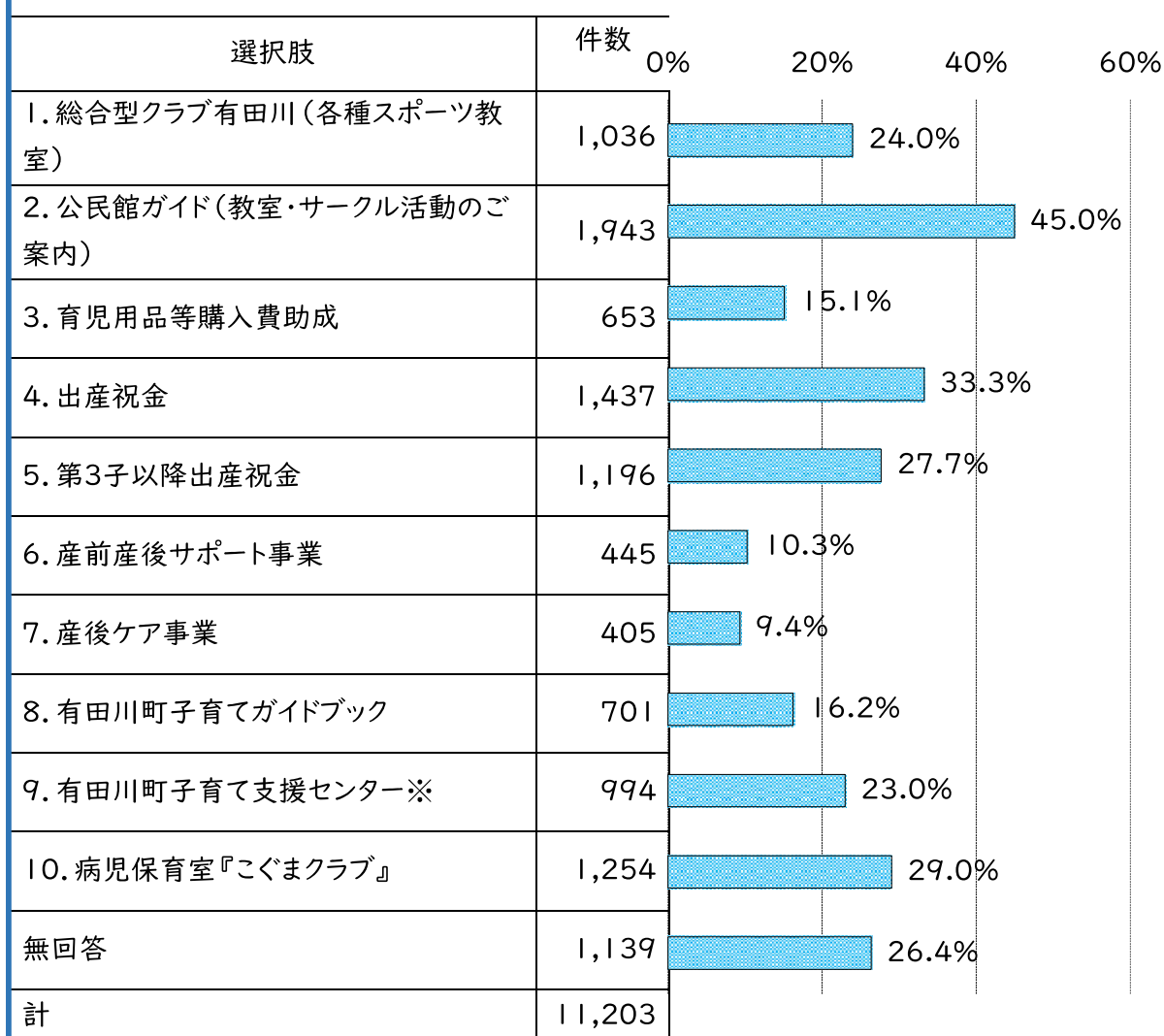
集計母数 4,317 名

※4 つ以上回答した 8 名を含む。

※保護者が疲れなための工夫（日よけのあるベンチ・見通しの良さ・乳幼児用遊び場へのフェンスによる囲いなど）

「一時預かり保育サービスの拡充」が 40.1%と最も高く、次いで「屋内の遊び場」が 31.2%、「熱中症対策が施された屋外遊び場」が 31.1%となりました。

33 有田川町で行っている教育・子育て・文化の充実・スポーツに関する施策（補助金・サービスなど）で知っているもの

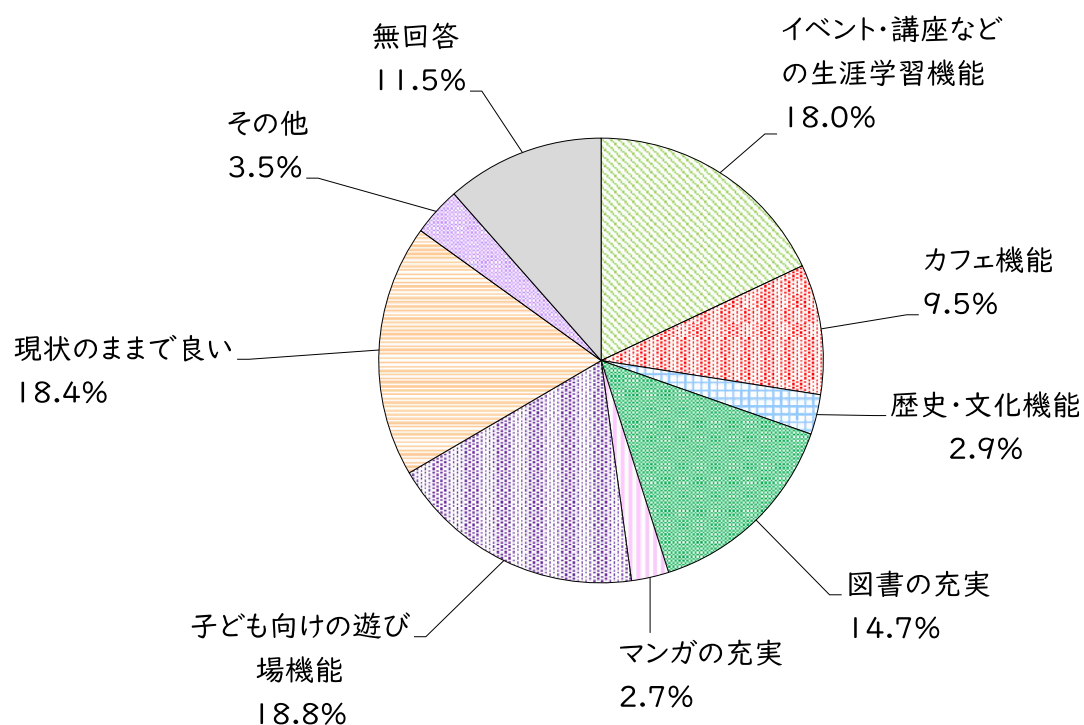


集計母数 4,317 名

※有田川町子育て支援センター（一時預かり保育・子育てサークル支援・子育て相談・ほっとルーム・園庭開放・あそびのひろば）

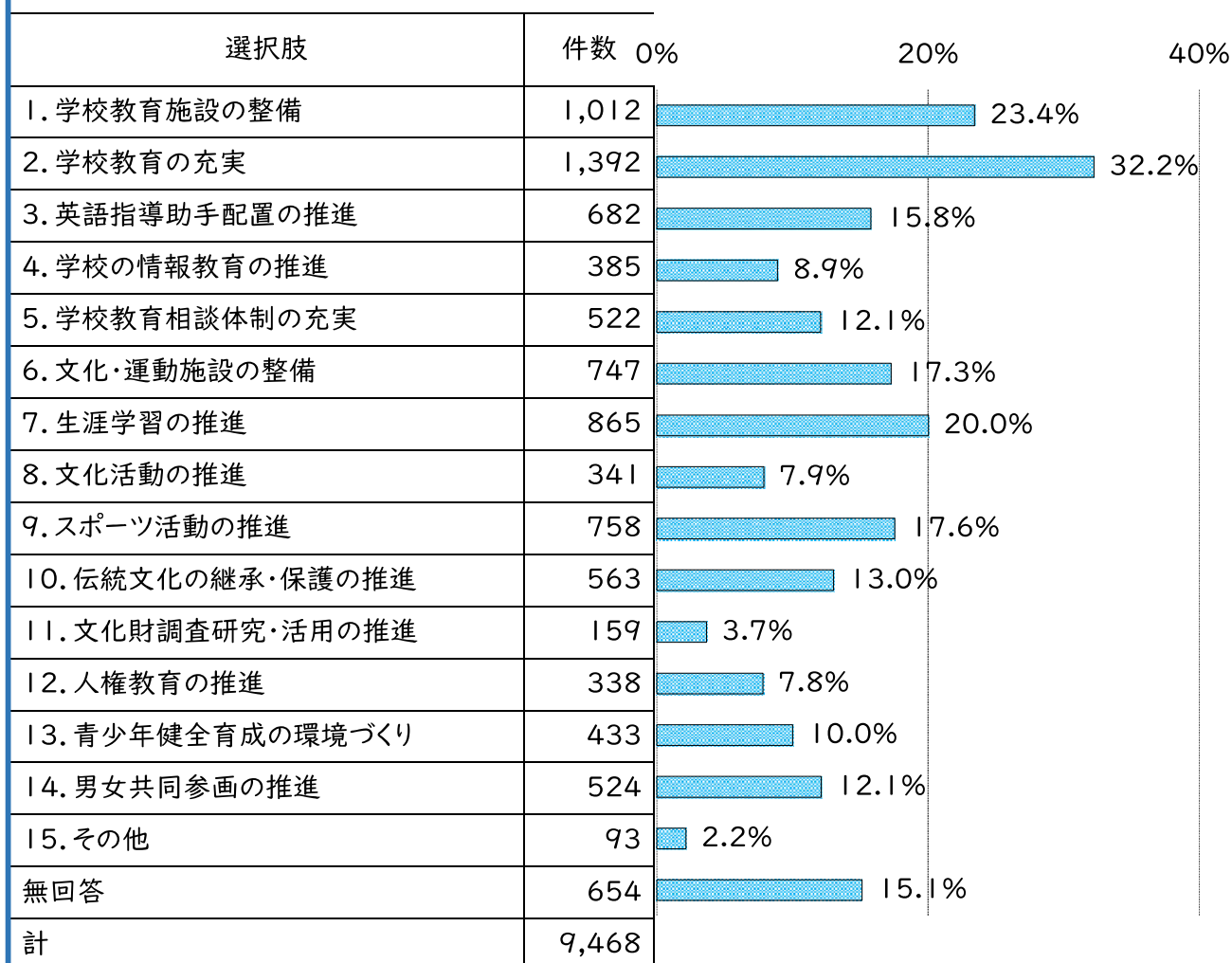
「公民館ガイド（教室・サークル活動のご案内）」が 45.0%と最も高く、回答者の約半数が認知していました。次いで、「出産祝金」が 33.3%、「病児保育室『こぐまクラブ』」が 29.0%、「第3子以降出産祝金」が 27.7%、「総合型クラブ有田川（各種スポーツ教室）」が 24.0%となっています。

34 有田川町の魅力・利便性を高めるために地域交流センター(ALEC)の持っているどの機能を強化・特化すべきと思うかお答えください。(1つに○)



「子ども向けの遊び場機能」が 18.8%と最も高く、次いで「現状のままで良い」が 18.4%、「イベント・講座などの生涯学習機能」が 18.0%となりました。

35 これからの有田川町の教育・文化の充実・女性の社会参画において、重要だと思うもの（3つまで）

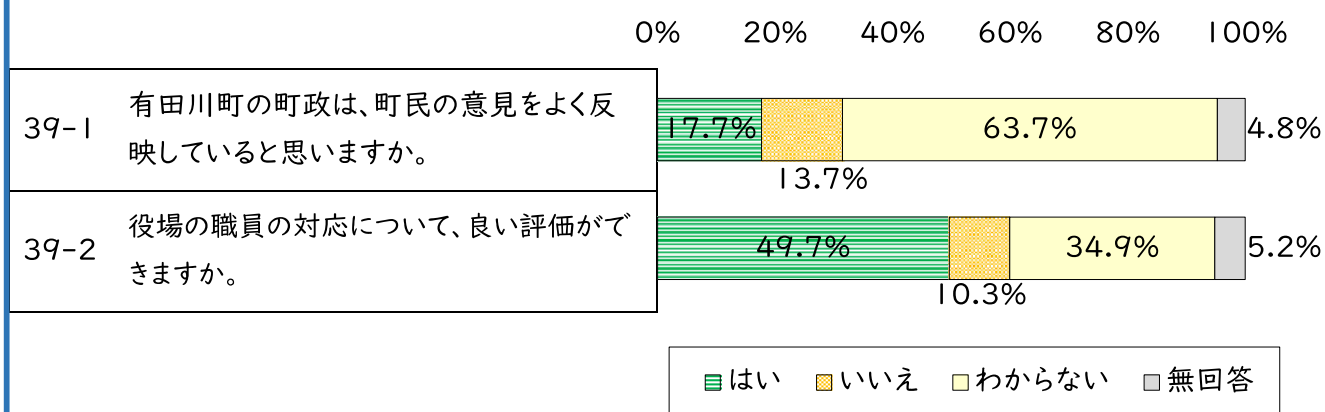


集計母数 4,317 名

※4 つ以上回答した 7 名を含む。

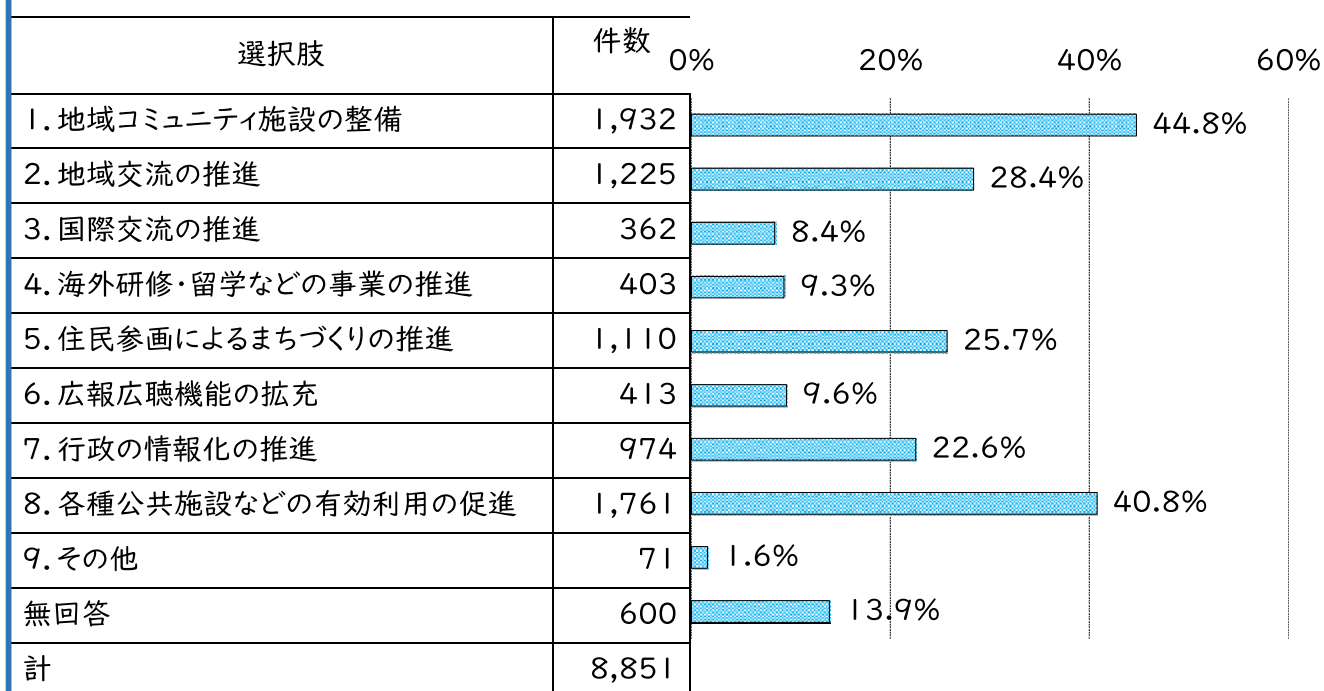
「学校教育の充実」が 32.2%と最も高く、次いで「学校教育施設の整備」が 23.4%、「生涯学習の推進」が 20.0%となりました。

36 次の設問について、1つに○をつけてください。



「役場職員の対応を良く評価できる」が49.7%となる一方、「町政が住民意見を反映している」は17.7%にとどまり、「わからない」が63.7%でした。

37 これからの有田川町の交流の促進や行政サービスの向上において、重要だと思うもの（3つまで）



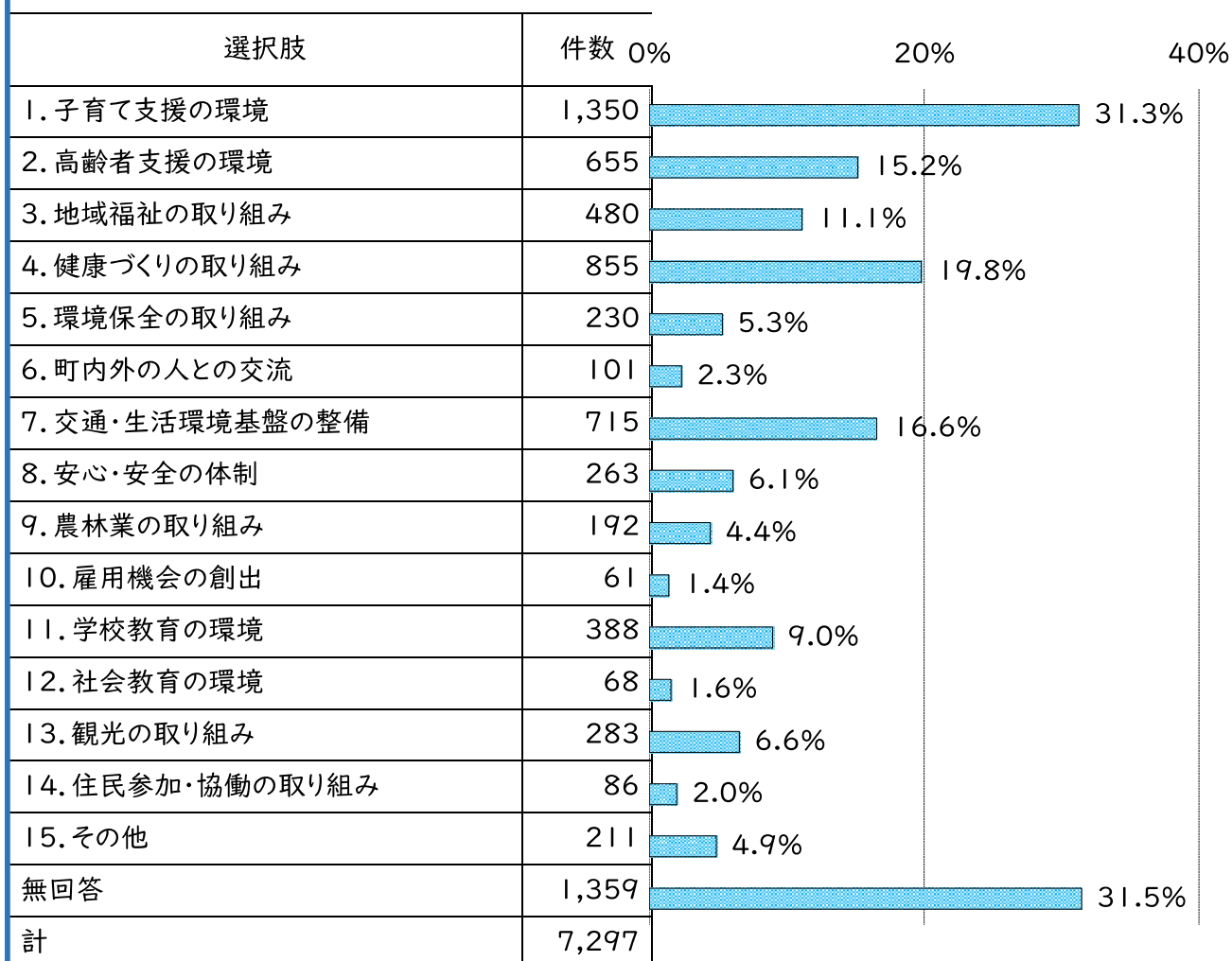
集計母数 4,317 名

※4 つ以上回答した 1 名を含む。

「地域コミュニティ施設の整備」が 44.8%と最も高く、次いで「公共施設の有効利用」が 40.8%、「地域交流の推進」が 28.4%となりました。

人口減少社会においては、新たな施設整備だけでなく既存公共施設を有効活用しながら交流拠点を維持していくことが重要と認識されていることがうかがえます。

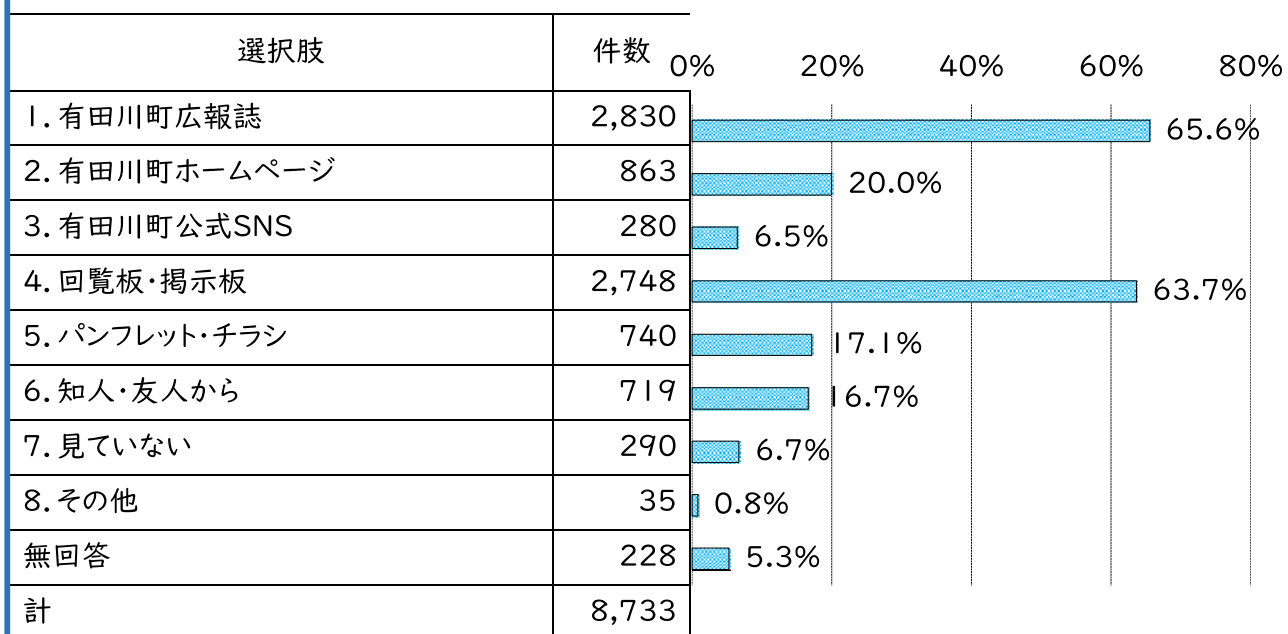
38 有田川町において、この5年間で良くなったと感じるもの



集計母数 4,317 名

「子育て支援の環境」が 31.3%と最も高く、次いで「健康づくりの取り組み」が 19.8%、「交通・生活環境基盤の整備」が 16.6%となりました。

39 有田川町からの各種案内や情報について、どのような方法で閲覧しているか



集計母数 4,317 名

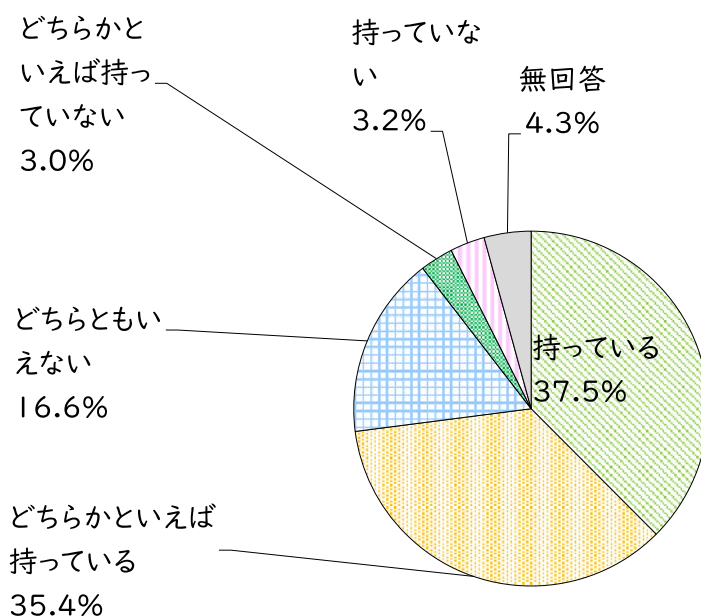
「有田川町広報誌」が 65.6%で最も高く、「回覧板・掲示板」が 63.7%と続いています。一方、「公式 SNS」は 6.5%にとどまりました。

紙媒体を中心とした情報伝達手段が依然として有効であることがわかります。高齢者比率の高い有田川町では広報誌や回覧板の役割が大きい一方、若年層向けには SNS 等の活用強化が必要と考えられます。

40 あなたは有田川町に愛着や誇りを持っていますか。

「持っている」が37.5%、「どちらかといえば持っている」が35.4%となり、合わせて72.9%が愛着や誇りを持っていると回答しました。

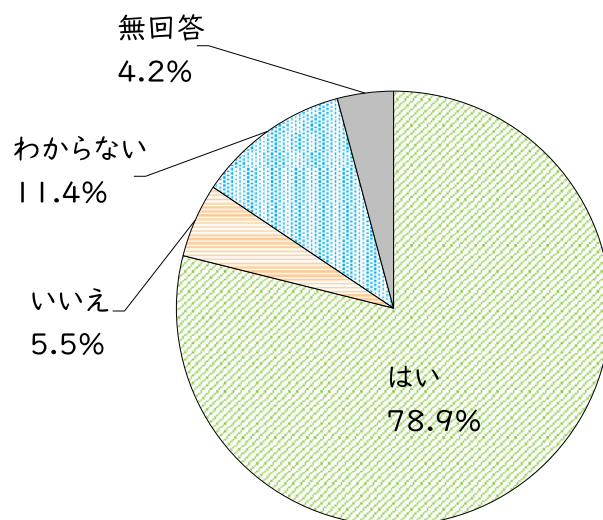
住民の郷土愛は非常に高く、地域コミュニティや自然環境への愛着が背景にあると考えられます。今後のまちづくりでは、この地域資源を活かした施策展開が重要となります。



41 あなたはこれからも有田川町に住み続けたいと思いますか

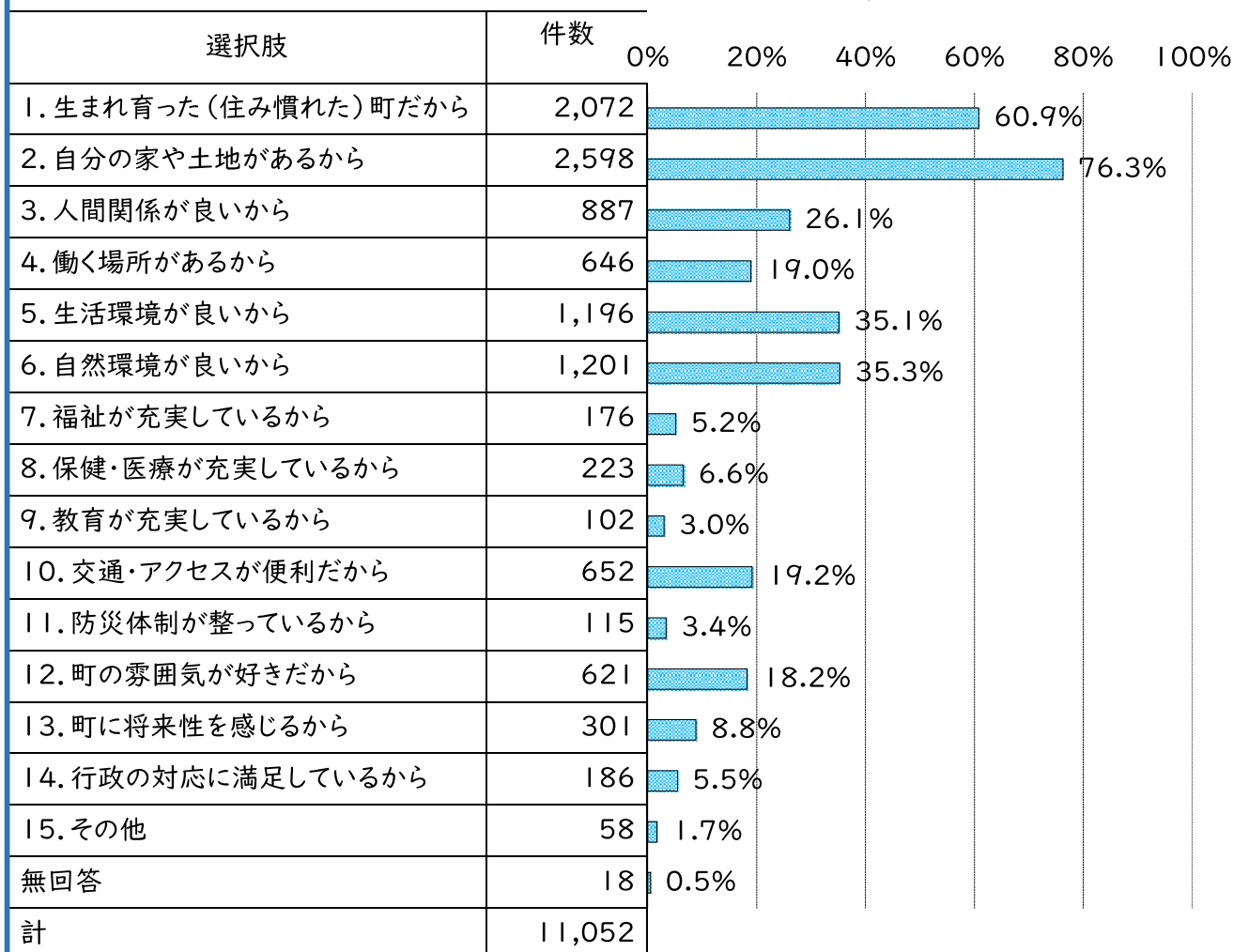
「住み続けたい」が78.9%と非常に高く、「住み続けたくない」は5.5%でした。

定住意向は極めて高く、有田川町が暮らしやすいまちとして評価されていることがうかがえます。



42 41 で「1.はい」（これからも有田川町に住み続けたい）と答えた方にお伺いします。住み続けたい理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

41 で「1.はい」（これからも有田川町に住み続けたい）と回答:3,404 人



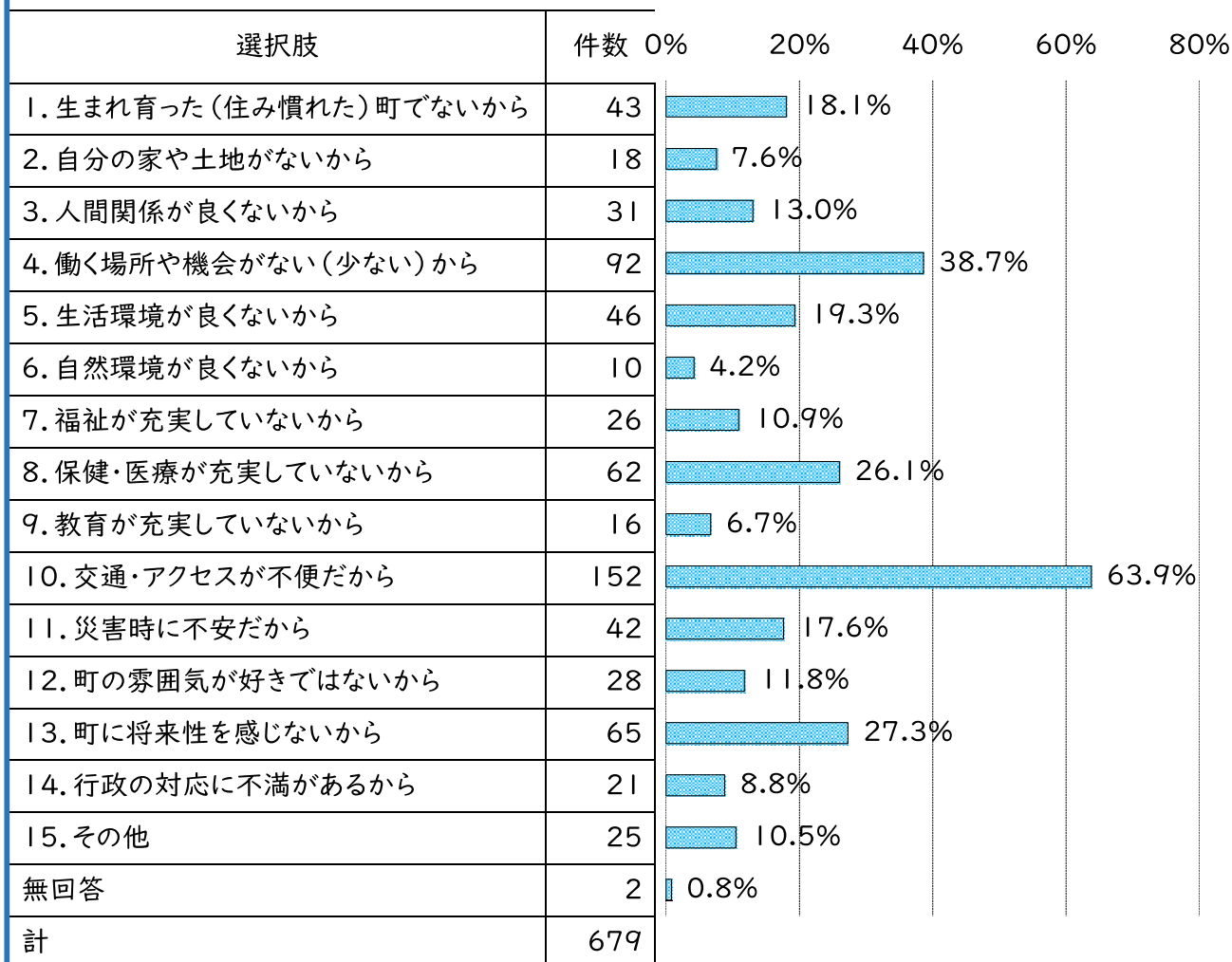
集計母数 4,404 名

「自分の家や土地があるから」が 76.3%と最も高く、次いで「生まれ育った町だから」が 60.9%、「自然環境が良いから」が 35.3%となりました。

定住意向は住宅・土地の保有や地縁性に支えられている側面が大きく、加えて自然環境や生活環境の良さも高く評価されています。

43 41 で「2.いいえ」（これからも有田川町に住みたいと思わない）と答えた方にお伺いします。住みたいと思わない理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

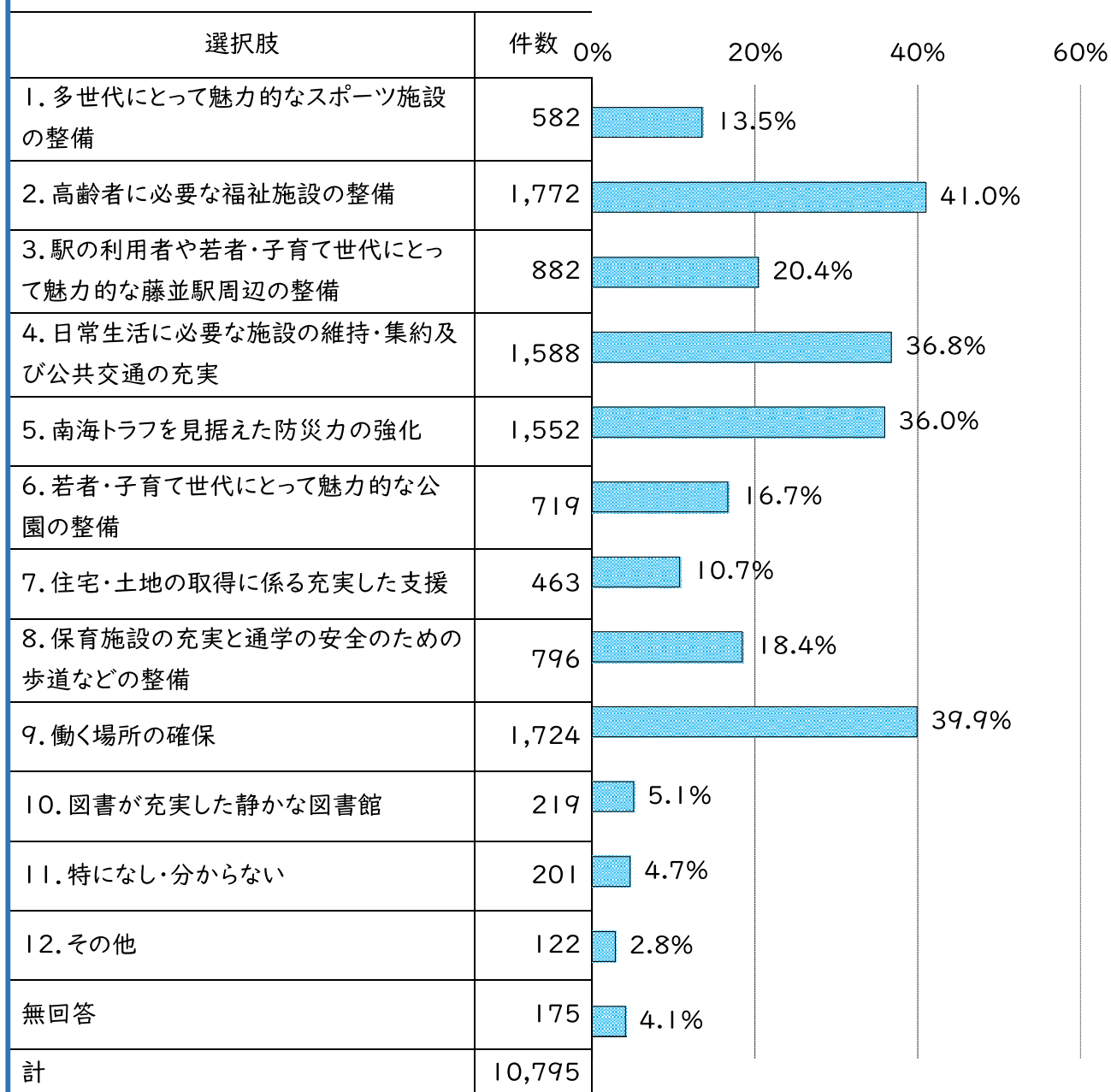
問 41 で「2.いいえ」（これからも有田川町に住みたいと思わない）と回答:238 人



集計母数 238 名

「交通・アクセスが不便だから」が 63.9%と突出して高く、次いで「働く場所や機会が少ない」が 38.7%、「町に将来性を感じない」が 27.3%となりました。

44 人口減少や高齢化が進む中でも、将来にわたり暮らしやすいまちを維持していくために、役場が主体的に取り組むべきと考える事業をお答えください。（3つまで）



集計母数 4,317 名

「高齢者に必要な福祉施設の整備」が 41.0%と最も高く、次いで「働く場所の確保」が 39.9%、「日常生活に必要な施設の維持・集約及び公共交通の充実」が 36.8%、「南海トラフを見据えた防災力の強化」が 36.0%となりました。

有田川町では、高齢化への対応、雇用確保、公共交通、防災対策が今後の重点施策として求められています。